京城日報

三十日夕刊

本紙定價　一ケ月金五拾五錢（郵税共）

發行所　京城日報社

○米國の電信嚴檢

米國政府は敵國に報告せらるる恐ある爲め陸海軍司法三省協同して電信の嚴重なる檢閲を爲すべし（桑港電報）

○ル氏の率ゆる黒人兵

桑港來電＝ルーズベルト氏の率ゆる義勇兵一千人中には黒人種多數を含めるが多分佛國に赴くべしと（東京特電）

○米國の財政的援助

華盛頓來電＝公式に陳述されたる所に依れば米國は聯合國に對し毎月八千萬磅より一億萬磅の財政的援助を爲すべし（倫敦電報）

○伯國對獨宣言期

リオデ、ジャネーロ來電＝伯剌爾拉議會は五月三日を以て獨逸に對し戰時狀態にある事を宣言し又抑留船舶の沒收及び聯合國に伯剌爾拉諸港の開放等を聲明すべし（桑港電報）

○英國首相の演説

英國首相ロイドジョージ氏はギルドホールに於て演説して曰く今や聯合軍の必勝は益々確實となりたり愛蘭問題の外前途何等の憂ふべきものなしと（倫敦電報）

○露國軍相の重態

陸軍大臣兼海軍大臣グチコフ氏は流行性寒冒に罹り稍重態也（紐都電報）

○對米無限潜艇戰宣言

アムステルダム來電＝獨逸は米國に對し無制限潜航艇戰を宣言すべし（倫敦電報）

○獨逸宰相の聲明

獨逸宰相は獨逸議會劈頭に於て聲明して曰く從來よりも一層具體的なる講和條件を提示す可し（紐育電報）

○獨逸罷業嚴罰命令

獨逸宰相は今や獨逸國内を擧げて革命熱益々熾盛となり隨所に同盟罷業の起るを防止する爲め之に關する嚴罰命令を發せり（紐育電報）

○萬國同盟組織計畫

伯林に於ける獨立社會黨は世界平和萬國同盟組織の爲め五月一日を以て會同をなす可し（紐育電報）

○獨社會黨職工招待

伯林より出でたる報道に依れば獨逸社會黨は一日八時間勞働制、世界の平和、國際的親和等に就き政府に要求を提起する爲め五月一日職工勞働者を招待せんとする決議案を可決せり（倫敦電報）

○支那對獨宣戰理由

支那對獨宣戰の理由として支那政府の聲明する處に依れば潜航艇横暴と駐獨前支那公使の無法なる抑留とに在り（北京電報）

○米公使の參戰勸説

駐支米國公使は支那政府に對し參戰を力説勸告する所ありたり（北京電報）

○佛軍隊慰問 謝電

二十七日夜華族會館にて催されし日佛協會の寺内、本野、松室三大臣歡迎會に於て決議せる佛國軍隊慰問の電報に對し佛國首相リボー氏より鄭重なる謝電を寄せ來れり（東京特電）

○四代議士入黨

坂本金彌吉田羊次郎今井嘉幸の三氏及び外一名の代議士は國民黨に入るべく從つて同黨は結局三十九名となる譯なり（東京特電）

○會計檢査官 渡鮮

會計檢査院檢査課長平塚定二郎氏は書記二名を隨へ三十日朝入港の高麗丸にて釜山著同十時三十分發列車にて大邱に向ひたるが氏は同地に一泊の上五月一日大邱發夜行列車にて京城に向ふべし（釜山特電）

○藤山氏一行 渡鮮

日本製糖株式會社々長 朝鮮甜菜糖株式會社發起委員長藤山雷太氏及び高山長幸、笹田一直の三氏は三十日朝入港の高麗丸にて釜山著同十時三十分發列車にて北行せり（釜山特電）

○ラ氏一行著鮮

紐育日本協會々長ラッセル及び理事ビップの兩氏は三十日朝入港の高麗丸にて釜山著同十時三十分發列車にて京城に向へり（釜山特電）

○島徳藏氏渡鮮

島徳藏氏は三十日朝内地より釜山著同十時三十分發列車にて北行せり（釜山特電）

○佐野海軍大佐 鎭海要港

鎭海要港部參謀長海軍大佐伯爵佐野常羽氏は三十日朝内地より釜山著鎭海に向へり（釜山特電）

◎總督一行動靜

北鮮巡視中の長谷川總督一行は二十九日午後三時半羅南出發午後五時清津著少憩の後光濟丸に搭乘し同六時同港解纜歸途に就きたる旨其筋に通報ありたるが一行は三十日午後三時元山著同地一泊一日朝出發釋王寺に向ひ一泊の上二日歸任の豫定なり

◎總督祝詞上奏

東宮殿下の御誕辰日當日長谷川總督並に山縣政務總監は謹みて殿下の御誕辰を祝し奉る旨濱尾東宮大夫を通じて上奏せり

◎政務總監參拜

山縣政務總監は高橋武官遠藤秘書官等を隨へ官房主要職員帶同三十日午前十一時より京城神社に於ける府主催の招魂祭に參拜玉串料を供へられたり

◎王家祝詞傳達

二十九日は東宮殿下の御誕辰日なるより李王並に李太王兩殿下は同日午前使を總督邸に派し謹むで殿下の御誕辰を祝し奉る旨進達方を依囑されたり

◎官署時間改正

總督府をはじめ所屬各官署は何れも五月一日より執務時間を改正し午前八時開始午後四時退廳の事となれり

◎荒井長官出京

母堂逝去の爲め新潟縣高田一ノ橋に歸郷中なりし度支部長官荒井賢太郎氏は三十日朝上野著汽車にて出京せる旨其の筋に通知ありたり、總選擧も一段落を告げたる今日とて總督府追加豫算は直ちに交渉開始の運びを見る可く遲くとも五月上旬までには決定歸京の見込なり

◎藤井中將通過

滿洲駐剳交代の爲め渡滿の途に在る藤井中將は二十九日午前十一時龍山驛著汽車にて入京、軍司令官邸に於ける午餐會に臨みし後京城各方面を觀察したる上午後三時總督官邸を訪問、同夜十時龍山發汽車にて滿洲に向へり

◎筑紫少將入京

陸軍兵器局長筑紫少將は支那行の途次二十九日午前八時五十分龍山驛著汽車にて入京せり少將は尚ほ二三日滯京の豫定にて三十日は軍司令部を訪問し又一日は總督府を訪ふ筈なり

◎ラッセル氏旅程

紐育日本協會々頭ラッセル氏及び同會理事ビップ氏は極東事情視察の爲め來朝目下内地滯留中の處卅日朝連絡船にて釜山著直に乘車同日午後九時南大門驛著入京の上三四日滯在し五日夜九時四十分南大門驛發にて滿洲に向ふべしと

◎島東拓監事入京

東拓監事島徳藏氏は大正五年度東拓決算監査のため三十日午後九時南大門驛著列車にて入京す

◎牧山代議士歸朝

郷里長崎縣より候補に立ち首尾好く當選せる朝鮮公論社長牧山耕藏氏は三十日夜福岡發一日夜歸京の豫定なり

◎丹波氏渡米

京城基督教青年會專務理事丹羽清次郎氏は既報の如く六月上旬紐育に開催せらるべき鐵道青年會大會に出席の爲め愈々五月一日午前八時三十分南大門發列車にて出發東京を經て渡米の途に上る可しと

◎東拓の事務打合

東洋拓殖會社にては各出張所事業部主任並に金融部主任を本社に召集し總裁理事以下列席の上樓上にて卅日及び一日の二日間打合會を開きつゝあるが卅日は午前九時より石塚總裁の事務上に關する訓示ありしと

◎青年實業家修養講話會

二十八日午後七時より京城銀行集會所に京城青年會主催の青年實業家修養講話會あり席上三井總督府技師の『戰時の歐米』と題する各有益なる講話ありたる後餘興に移り十時散會したるが來會者百五十餘名盛會なりし

◎御慰問使大田出發

御慰問使内山侍從武官長の一行は滯りなく大田部隊に對し聖旨及び御下賜品を傳達し中川旅館に投宿したるが豫定の如く二十九日午後零時三十分發南行列車にて大邱へ向け出發せり停車場には出迎の時と同樣軍隊、各官衙公署の高等官以下及び町内在住の主なる有志各學校生徒、愛國婦人會員將校婦人會員、在郷軍人會員等の見送りあり非常の盛況也し（大田）

南北滿洲　西海生

不動産貸附問題

▼朝鮮銀行が滿洲不動産に對する勸業銀行の代理貸附けを初むるだらうと云ふ聲も近時切りに聞ゆるし、又東拓の滿洲進出も遠からず實現するだらうと思はれる、此際滿洲唯一の確實な不動産金融機關と稱すべき正金銀行の特貸成績を大連支店で聞いて聞る

▼正金の特貸と云ふのは、正金が政府から特別低利資金三百萬圓の融通を受け、其の資金を以て滿洲及び北支那一部に於ける不動産を抵當とし、極めて低利に貸附を行りつゝある制度である、唯均しく不動産と云つても、土地はまだ滿洲及び北支那共其の所有權を認められてゐないから、低資融通の範圍は殆んど建物のみに限定されてゐる

▼其の特貸が最近滿洲に約百八十五萬圓ばかり出てゐる、而して其の五割弱九十萬圓内外が大連の家屋擔保貸出しとなつてゐるらしい、而して正金特貸主任の話しによると其の九十萬圓は大連建物の約三分の一強に及んでゐると云ふ、何分正金の特貸は利子年七分と云ふ割安だが、鑑定評價の七掛しか融通をなさない事に制限されてゐるため一般の申込も大して盛んとは云へないやうだ

▼從つて八掛若くは九掛の貸附をやる大連銀行や市中の個人金融業者の一部若くば一割以上と云ふ高利の不動産擔保貸金が仲々少なくない、正隆銀行も手形の書替へを繼續して行く式で長期の建物貸出しをやつてゐる、之等の統計は精確な數字を知り難いけれど、恐らく百五十六萬圓を超ゆてゐるだらうと云ふ玄人筋の觀測であつた

▼大連に於ける狀態右の如くて滿洲各地の現勢は略大連に似た傾向を呈しつゝありと見て大過ないから、東拓金融部の北進や鮮銀の勸銀代理貸附も、正金の特貸制以上に勉強し活動して行けば、其處に拓くべき餘地は狹くはあるまいと思はれる

▼序でに大連に於ける普通の建物は坪平家六七十圓二階百二三十圓で正金や外の金融機關の貸附期限は普通五六年らしい。

大連の水攻め

▼街路整然、巨屋鱗次の堂々たる大連市街を見ると、殆んど朱點の打ち所に窮するやうだが、偖て仔細に内部を觀察すれば、存外ぬけた所もある、大連の水攻め乃ち其一例……

▼大連の水道は沙河口附近に於ける馬蘭河の河床を掘り下げ、其處の井戸に溜つた水を喞筒の力により、伏見臺の高地に送り、全市に配水をする順序となつてゐるが、其の最大給水限は六萬人に過ぎない、然るに今日の大連日支人は彼是十萬に近く之等の多くは其の飮料を全部水道水に求めてゐる、既にそこに需給の調和はとれなくなつてゐる、然るに昨秋來關東州は稀有の寡雨、寡雨と云ふより無雨である、又可なり盛んになつて行く大連工業用の用水も大量だから勇々水道の給水力は非常に細つた

▼結局、民政署は此の春から極端な給水制限を行つてゐる、で今日の所では午前は七時から九時まで、午後は二時より五時までと云ふ一日僅に五時間より通水しない、幸ひ大連は家屋の防火裝備が十分なため、從つて火事の危險も少ないが、一日五時間の給水では風呂屋、旅館、料理屋等の困苦は酷いものがある

▼尤も都督府では繼續事業として馬蘭河の上流四里の位置に、水道擴張工事を行つてゐる、之れが大正八年度になつて完成すると新舊を合せ十五萬人の最大給水量を有する事となるさうだから、此の大連の渦道の苦しみも脱せられ、工業用水の如き多くの困難なくして得られるやうにならう、それまでは當局にて若干の應急施設は加ふるらしいけれど、市中の用水不足の聲は依然繼續すると見て差支へないやうだ、此頃の大連は實に水に攻められてゐる

◎歐洲戰後の工業　陸軍兵器局長　筑紫少將談

陸軍省兵器局長陸軍少將筑紫熊七氏は支那各地視察の爲め出張を命ぜられ渡支の途廿九日午前一時三十分釜山入港の連絡船より上陸同十一時二十分發急行列車に搭乘天津に向け直行せり車中記者に語りて曰く此度の支那視察は何等別に意義あるに非らず只少閑を得たれば向ふ一箇月半の豫定を以て先づ天津に赴き其れより北京に到り中支那の各地を巡視し上海に出で歸朝の途に就く豫定であるが、支那の兵器統一に就きての調査とか又た兵器工廠の調査抔と云ふことは斷じてない只だ支那各地を見物して來たいと云ふ主旨

▲平凡な旅行 に過ぎず、同行者たる近藤中佐及び川崎少佐は奉天迄往き其先の行動は今のところ定まつて居られぬ樣である。偖て歐洲戰亂も近く何とか片も付くであらうが戰後に於ける世界各國の狀態は大に變化を來すと共に我邦に於ても之れに應ずる大なる決心を以て革新を要することであらう第一軍事の點に就きても從來は動員を主腦としての戰計畫は一轉して軍器の充實を主要となさねばならず其他一般事物の上に於ても國家的動員を行ふの必要を認められ軍民相一致して國威の發揚に盡さざるを得ざるの適切なるを感じ益々多事の狀態に進めり、從來一般に軍人と云へば只戰爭を爲すことのみを主眼として居る樣であるが國家獨立の要素として平時に於て

▲平和を保障 し國威の進展に努むることは戰時よりも寧ろ重要なることである、又た國民にありても只だ戰時に際してのみ昂奮して平時に在りては軍事上の用意を缺ぐことありては國家を危態に導くを虞ふべきことにて軍民一致し平素に於て十分の覺悟と世界の大勢に周密なる注意とを拂はねばならぬ國家としては何うしても强大なる威力の後援を保たざれば進展し得ざるのみならず到底獨立の實を維持し難きことにて現に支那の如きも斯く曠大なる地積、莫多の國民を有し、生産の物資乏しからず殊に

▲國民は勤勉 にして各自業務に勵み何れの點よりするも他各國に比して何等劣る所なきに拘はらず現時の國狀は如何此れ全く國家の威力に缺ぐる點あるが爲めに外ならず、所謂富國强兵並進まねば國運の發展を望むべくもあらざるなり何れ歐洲戰亂も近く平定の時期到來すべきが其際に於ける我國民の用意は如何コハ既に猶豫を許さゞる時機に迫つて居る殊に此度の歐洲戰爭の爲めに俄かに勃興せる我國各種

▲工業の將來 は如何に始末を附け得べきか此れが研究は實に國家的重大問題にして若し始末の手段を誤れば如何なる結果を來すべきか愼重に注意を拂はねばならぬ殊に特種工業即ち民間の兵器製造事業の如きは歐洲戰亂の平定と同時に一先づ事業の終局を告げざるを得ざる運命に在り此等工場は宜しく今日に於て適當の他工業に轉ずべき準備を爲すこと必要且つ急務なりと思はるゝのみならず特種の器械、技術者、職工は何等かの方法を以て國家として保存保護の途を講ぜざるべからず政府に於ても夙に此等に就きて研究調査せられ居るもの丶如し（釜山）

大正六年四月念大連客遜延無佛居士賦送　菩堂　結城　琢

鄙門一別十餘年。萍水相逢幽里天。談笑興圖三尺劍。山河穩處發吟肩。客中送客意如何。不做詞人泣涕沱。今日遼陲皐澤邈。春風滿地聽驪歌。

送滿洲視察團　志賀　敬愛

櫻花將笑鳥頻鳴。此際欽君向滿洲。遼左山川帶嬌態。瀋陽風月迓征遊。觀光方見文章勇。察俗誰懷家國憂。偏禱諸卿返來日。須回東亞百年籌。

◎仁川◎

▲官衙執務時間 各官衙にては五月一日より七月十日迄執務時間を午前八時より午後四時迄とす

▲觀覽席申込多 各校聯合運動會一二三等觀覽席は寄附金額の多寡に依り提供しつゝ有るが一等席二十四、二等席十一、三等席二十二中卅日正午迄に各等共約半數程割當て濟みとなり尚引續き寄附申込み中なるが重なる申込者は積善會、電氣會社、鮮銀、滿鐵、其他取引仲買店運送店主等なり

◎平壤◎

▲機業傳習所改廢 平南にては今後益々機業の隆興を圖る爲め平壤に教師一人鎭南浦に助手一人を置き道立機業講習所に勤務せしめ兩地の機業者を實地指導し向ほ原料の需給製品の販賣等をも斡旋せしむる由にて龍岡の機業傳習所は既に養成し産者已に五十九名に達し目下養成しつゝあるものを合すれば六十四名に達せしを以つて本年度より之を廢し新に蠶業傳習を開始し蠶業授產者を養生する筈

▲成川の牛市場 成川は所謂平壤牛の本場にして饒牛肉牛と殆んど理想に近き體質を備へ居れるが郡當局に於ては畜牛の獎勵にもと邑内に牛市場を設置すべく慫慂せる結果同地の有力なる内鮮人の組合組織にて市場を邑の南方訪仙門附近に開設したるに出市牛回を逐ふて增加し賣買も圓滑に行はれ前季の如き該組合の配當十三割に達し邑内も亦た牛市場開設の爲め尠からざる好影響を受けつつあり

◎群山◎

▲祝賀會 來る五月一日は群山開港十八周年記念日に相當するを以て同日午前十時より群山公園に會場を設け官民合同祝賀會を擧行する筈なるが萬一雨天の場合には小學校講堂に於て開催すべし

▲運動會 既報せる如く群山實業俱樂部主催となり群山開港記念日當日店員慰藉大運動會を開催する爲め委員等は過日來準備に忙殺され復た運動選手等は競技練習に餘念なく當日は猛烈にして奇拔なる競技數番ありて先めて盛况を呈するなるべし

▲部長來群 新任全羅北道警務部長中島大佐は管内警務狀況視察の爲め廿七日午前十一時半著列車にて來群し群山署に入り寺島署長に就き同署管内警務狀況を聽取し署員を集めて一場の訓示を與へ次で在郷軍人群山分會員に對し一席の講話を爲し同夜は料亭花月に於ける群山官民の歡迎會に臨み翌二十八日は市内各方面を視察し當地二泊の上二十九日一番列車にて金堤に向け出發したり

人事消息

▲岡村左右松氏（朝鮮製紙會社重役）卅日朝退京

▲佐藤功一氏（早稻田大學講師）同上

▲藤田虎直氏（戸畑製紙會社々長）同上

▲藤山雷太氏（日本製糖會社々長）三十日夜入京巴城館へ投宿の筈

▲島徳藏氏（大阪實業家）三十日朝入京巴城館へ

▲安武千代吉氏（釜山辯護士）三十日朝入京不知火旅館へ

▲福田楷樓氏（同）同上

▲木村雄次氏（鮮銀理事）二十九日夜東京より歸京

▲米國領事（京城駐在）二十九日夜平壤より歸任

▲山崎壽夫氏（咸鏡總督府技師）二十九日夜入京旭城館へ

▲水谷千萬吉氏（平壤醸業所長）三十日午前入京巴城館へ

▲米國觀光團一行二十四名 入京中三十日午前内地へ

▲金澤文學博士（總督府囑託）三十日午前内地より入京朝鮮ホテルへ

□山口より　一象

内地は四月二十日を過ぎて陰雨一過の狀況一句を得たり

から風のほとりを洗ふ青葉雨

大奧と支藩の當選を祝して

常磐木の春は流石に若芽かな

山縣政務總監玉串を捧ぐ=南山の招魂祭に於て=

●散る花を浴びて
南山の殉職戰病歿者招魂祭

早咲きの倭城臺の一重櫻風なきにはらはらと散る三十日午前から南山忠魂碑附近の廣場に於いて軍人軍屬その他朝鮮に於ける殉職戰病歿者の招魂祭が行はれた、祭場附近には

□紅白の幔幕 を張り祭壇け神佛二樣に別ち倶に北面して嚴かに設けられ供へ物あまた獻せられた壇上には靈耀、法燈熾灼と燃ねて神々しく、幾多の雄魂英靈來つて是れに宿るの觀があつた、定刻なる

□午前十一時 となれば祭主、齋主、齋員並びに李王、李太王、李堈公御使、秋山軍司令官、山縣政務總監、立花師團長、各部長官、局長古海警務總長、芳賀總督府醫院長松永道長官を始め、駐劄軍、師團の高級幹部、その他各官公署職員殉難者遺族、赤十字、愛國婦人會員京城婦人會員、軍隊、各部團體代表者在郷軍人會、警察官及び醫學、工業の兩專門學校以下內鮮各中等學校小學校生徒一同及び一般參拜者の著席と同時に

□齋員進み出 て恭々しく修祓を爲し祭典の起ると共に參列諸員平伏の裡に齋主の招魂の式あり、更に獻饌を終れば白衣の齋束清らかな齋主神前に進んで祝詞を奏し、その朗らかな祝詞の聲が斷ゆると同時に各宗僧侶一齊に佛前位牌に額づいて導師先づ燒香を行なひ伽陀の禮を行なひ讀經し回向文を捧げて退けば祭主たる金谷府尹は鞠躬如として祭壇に進み

□嚴かに祭文 を奏した、そして之れが終るを待つて齋主玉串を捧げ拜禮し續いて祭主、李王、李太王、李堈公の各御代拜、秋山軍司令官、山縣政務總監、立花師團長、各部長官遺族その他各參拜者順次に玉串を獻じ燒香して各英魂を慰めたが之れに次いで職員に引率された各學校生徒一同の參拜があり神饌を撤し副齋主昇魂の式を行ひ全く式を終つたのは十二時五十分であつた

●大谷光演師滿洲に向ふ

大谷法主一行は三十日午前八時三十分仁川より龍山に著し鐵道局に暫時休憩の上同九時二十分龍山驛發にて滿鐵線に向へり

●鮮人土工二百餘名暴行を働く
京釜線の椿事=主謀者十五名引致

京釜線金泉秋風嶺間鐵道改良工事從業中の內鮮人土方仲間に於て大爭鬪を演じ八名の重輕傷者を出したる椿事あり去る廿三日は陰暦三月三日にて各工事場は內鮮人一同休業し中にも鮮人土方等は二百餘名一團となりて山遊びを爲し

▲何れも酩酊 したるが豫て第二第三兩隧道の中間に居を構へたる石工井上貞次郎の配下に屬する太田芳太郎の部下鮮人々夫長俗稱八石と呼ぶもの過日土工藤田隆の部下鮮人を口穢く罵りたるを彼等は深く遺恨に思ひ今日こそは復讐せんと同日午後四時ごろ藤田の部下鮮人等は八石を矢庭に取圍みて各々大小の松丸太にて所嫌はず亂打したれば八石は全身十數ケ所の重輕傷を負ひ其の場に打倒れて

▲人事不省に 陷りたり此騷動を知りたる太田の妻女は驚きながら現場へ駈著けたるを敦圖き立てる鮮人輩は理不盡にも是をも打据へたるにぞ太田の部下內地人三名其の救ひに立向ひたるが何分多勢に無勢なれば如何とも詮術なく散々に打ち惱まされ皆傷を負ひて退却したり勝ち誇りたる藤田部下の鮮人等は

▲勢ひ凄しく 鯨聲を揚げて七時頃太田の居宅に押寄せ家屋を破壞し尚其部下內地人二名の住宅及び器具等をも破壞したる上八時ごろ引上げたり此急報現場附近なる大和憲兵出張所より金泉憲兵分隊に達するや時を移さず後藤曹長以下現場に急行暴行せる鮮人二百餘名の內より主謀者十五名を見出して金泉憲兵分隊に引致の上

▲目下取調中 なるが被害者中八石の負傷最も重く治療六七十日を要すべきも生命には別條なく其の他太田の妻を初め內鮮人部合七名の負傷は治療約二三十日以內にて何れも快癒すべき見込なりと

◆本町署の盜難豫防

京城にては頃日家族擧つて花見遊山に出歩るくもの多き爲め盜難被害頻發し本町警察署管內居住內地人の如き一日に數件以上の被害屆出であり本町警察署にては之れが豫防警戒の爲め去る二十二日より每日非番巡査を私服として警邏せしめ居れるが其の爲めか怪しき風態の鮮人等の横行するもの減少し被害の如きも俄かに減じ茲二三日は殆ど被害無しと

●列車大衝突
即死廿七名負傷六十五名

二十八日莫斯科附近にて普通列車と貨物列車とが正面より大衝突を爲し客貨車三輛は微塵に粉碎され三輛大破損を生じ即死者二十七名負傷六十五名に及べり尚死傷者中には兵士二十七名あり(哈爾賓特電)

●囚徒破獄未遂

青島舞鶴ケ一を以て一晝[illegible]

●埼玉縣大火
死傷者夥し

二十九日午後埼玉縣秩父郡中川村字上田野村大坂喜一方より出火八十六棟五十戸を燒失し小學校員飯野浚之助燒死し負傷者二十九名に及びたるも鎭火せず火は朝興寺に燃移り三名燒死せり(大阪特電)

●江原道の降雪

江原道警務部よりの電報に依れば襄陽郡管內にては廿八日午後より降雪あり二十九日午前一時に至つて止みたるが五色峴附近は積雪二尺五寸に及び交通困難を極め又た麟蹄郡杆城郡に於ても降雪ありたり

●支那選手通過

五月八日東京芝浦に於て開會の極東オリンピック大會出席の支那側選手北京成華各校副校長張國瑞氏一行數十名は三十日午後七時半南大門驛通過東上す

●横領と詐欺

自稱山口縣阿武郡萩生村當時平壤幸町雜貨商原松次方雇人西村貞次郎(卅六)は去月二十六日より二十九日迄の間に得意先きなる山口滿次郎外四十七戸より賣掛代金二十八圓を横領したるのみならず南門町小林時計店に於てニッケル側懷中時計價格五圓餘りのものを原松次郎の使なりと稱し騙取し悉皆賑町遊廓に於て費消したるを平壤署の刑事に探知せられ四月十日市中を徘徊せる處を逮捕取調の上四月十七日平壤地方檢事局送りとなる(平壤)

●天草神來葬儀

天草神來翁伯は二十八日午後五時酒精神經病にて逝去せるが享年四十六歲葬儀は三十日染井墓地にて行はる(東京特電)

●聯合飛行演習
下志津原にて

千葉縣四ツ街道野戰砲兵射擊學校及び所澤航空大隊聯合演習は五月九日より下志津原に於て行はるべき豫定なるが右演習にて飛行機に無線電信を取附け陣地發見著彈距離測地上空中聯絡通信試驗等を行ひ北白川成久王殿下も參加あらせらるべし(東京特電)

●帆前船十六隻の沈沒

山口縣下にては二十八日來の暴風にて沈沒せる帆前船十六隻に及び溺死者及び行衞不明者四名あり(大阪特電)

●染料工場燒失

二十九日午後和歌山縣由良染料會社より失火工場全部燒失し職工及び防火の爲め馳せ付けたる兵士等負傷せり(大阪特電)

●井戸へ逆様に投げ込む

濟州島生れ當時釜山牧の島居住崔藏鳳(三十)は濟州島居住の張聖仁(三一)の妻海女趙紅翠(三四)を三年前誘拐し來りしを三十日朝牧の島にて尋ね出し連れ歸らんとせしに姦夫崔及び其の友人張聖玉の二人にて本夫張を毆打し溫泉川近の井戸に逆さに投げ込みたれば裴は生命危篤なり加害者二名は直ちに逮捕せられたり(釜山特電)

●天草神來遺族に同情

頃日東京駒込の自宅に於て逝去せる天草神來翁伯は人も知る如く天資淡白清貧に甘んじたる人にて突然死後の困狀は察するに餘あるに就き京龍其他の知人間にて同情の寄附を贈る事と成りたる由同感の士は多少に拘らず本町二丁目清々園倉田氏に宛て寄附せらるれば一括して送金する由にて場合に依り同氏方より受取人が差出しても苦からずとの事なり

◁觀察のあと▷

▲何處までも =露西亞式= 哈爾賓見物

◇廿四日一行の哈爾賓見物は此の露西亞式の都會として最も興味深く期待されたる一日で同時にまた最も珍らしく面白かつた見物に相違なかつた

◇哈爾賓の街は極めて粗大なやうで未成品のやうでそれでゐて大仕掛なを得たやうな街柄である、砂と埃とに汚れた窓硝子、剝げかけた壁などは所在に見る、われわれ日本人の眼には極めて不快な感じであるがこれが謂ゆる露西亞式とでもいふのであらう

◇大百貨店チユーリンを見た、店はクンストアルベス商會とならんで極東の商権を一手に占めてゐると聞いたが競爭者のアルベスは目下閉鎖の姿といふので獨りチユーリンが獨り商權を握るとなつた

◇店はさすがに大きなものだが總ての商品に對する感じはハルビンの街に對するそれとあまり大差なかつた、只店の勘定方や賣子などに綺麗な娘が居るのは日本に同じくお客にとつて快よいが商品はすべて日本品若くは米國品のみであつた

◇ここに風趣な露西亞式外套が珍らしいといふので早速値段など訊きはじめるとそれは何れも京城の丁字屋製のものとかで出しかけた財布を引込ませるも面白かつた

◇武術部の店に行つて見るとエヘカキヤや顏の作り飾はすべて革命派のロザヤンコ氏やミユルコーフ氏などの似顏ばかり今まで飾られて居た露帝や双鷲のロマノフ家紋等はすつかり撤去されて了つたといふ

◇丸いゴロ〳〵石を敷いた往來で不圖露西亞の少年が支那馬車の馭者と喧嘩するのを見た、少年は眞紅になつた顏に涙をボロ〳〵溢しながら大きな支那馬車を追うて石を投げつけ〳〵罵つてゐた、哈爾賓に於ける露支兩國の地位、敗け犬の魂のスラーブ氣質そんなことがつく〳〵考へさせられた

◇哈爾賓の朝鮮銀行支店は埠頭區キタイスカヤ街にある、昨年七月同部支店長が來て開店して以來日に月に益々發展し殊に日露、日支貿易の躍進に伴ひ大阪地方との爲替取引が最も盛んとなつた、從は別に哈爾賓の經濟的中心地ともいふべき傅家甸には神宮才次郎氏を主任として出張所を設け盛んに支那商人との貸付及び預金取引が發展した、そして鮮銀の人氣が南北滿洲到る處で好評であるのは何よりも悅ぶべきである

◇斯く商品といひ金融機關と云ひ哈爾賓經濟界に於ける邦人の努力は牢乎として拔くべからざるものとなつたそれに此の地は將來對露貿易よりも北滿對支貿易が有望であつて現に露領たる黑龍江沿岸には以前百五六十萬人の住民が居たが今では移民獎勵の結果二百卅萬人となり小麥大豆等の農産物も增加るし購買力も從つて增大しつゝある、故に歐洲戰爭後と雖も相當支那向きの取引は增加するであらう

◇哈爾賓の街は元來支那の領土にありながらその行政權は露西亞にある、それで在留邦人は日本人側の税金も負擔する他に露西亞の税金もとられる、家の建築には一定の制限が設けられ窓一つ明けるにも官憲の許可がなくてはならぬ——とは何處までも露西亞式=

◇また久しく山のやうに積まれた歐露行きの旅客貨物も數日前全部持ち運ばれたがこの次ぎはまた一月後ちか二月後ちか見當がつかぬ、それまでは雨がふらうと矢が降らうと打捨つたまゝでお構ひなしとはこれも有體に露西亞式=

◇一行の歡迎會は廿四日午後六時から居留民團役所の公會堂で開催せられた、出席者は黑澤副領事を始め滿鐵、鮮銀、三井、正金等の主腦者及び官民有力者一同であつた、席上祝盃を擧げるわが觀察團の鮮人紳士が此の日鮮支三箇國接續の地に大擧して來觀したといふとも面白い出來事であつた、卓子には露西亞料理のザクウスカが並べられてあつた

◇愈よ廿五日の朝哈爾賓を出發する時俄然停車場前で哈爾賓の街の火事を見た、それツと驅け出す消防隊は何れも露人の巨漢で眞鍮の甲をピカ〳〵させてゐる、それに赤い太鼓のやうなタンク附き馬車を火の出るやうに飛ばせてゐたがさすがの大露西亞人にしても火事の場合は急いで驅けつける程の勇氣があるかと末頼もしくも思はれた(金谷生)

讀者文藝 (一等には五十錢の薄謝を呈す)

△謎「花見とかけて」 京城光化門 窪田春陽
傳染病と解く(こゝろ)は避け(酒)無くてはならぬ

▲運動會と解く 心は一齋を擧げて行く(一國か擧つて行く) 龍山 乃 [illegible]

▲物價ひと解く 心は暴れる(爽れる)と解へる 南州 三愛又五子

▲紅と解く 心は鼻で飮む 龍山 乃谷巖

▲夜學の勉强と解く 心は目的は就眠(酒食)にあり 龍山 樂 子

商況

公債直取引(京東) 三十日現在値 五分特別 五分利公債 一回四分 二回四分 甲 九七、八〇

深川在米特電 三十日現在高 朝鮮米 臺灣米 內地米 一九六、九五二 六七、五七八 一、七一九、五八〇

東京期米特電 三十日前場 寄付 高値 安値 止め 五月限 一七、三二 一七、三三 一七、三九 一七、二九

大阪期米特電 三十日前場 納會 一六、七九 一七、一四 止め

下關期米特電 三十日前場 當限 中限 先限 一六、〇三 一六、二〇 一六、二〇 一六、一六 一六、二六 一六、一九

雜報

●綿糸布大爆發

反動氣落を告げし綿糸は二十八日後場に至り人氣沸騰大反撥となりしが休日明けの今朝は第一信現物十六手二百圓と休日前に比し二圓高綿布龍シー七圓十錢と稍々高氣配を入たるが第二信にて突如綿布現物十六手二百二十圓綿布三銘先物七圓四十二錢龍シー先物七圓四十錢現物七圓六十五錢といふ大爆發の入電に於て何分一信と二信の差は綿糸に於て二十圓綿布に於て三十五錢內外の大開きにて常軌を逸せる相場なると餘りに市場の突飛なる人氣の騰貴なる形あり如何なる突發事件の有るや詳ならざるも或は現品材料の缺乏を楯に思惑筋の相場釣上げ策として突飛に煽りたるにあらざるか死に角記して後報を待つの外なし

●入札炭行惱み

昨冬以來炭價暴騰以來之の納入には各地とも困難甚だしかりしが今回また土木局鐵道局の入札に就ても行惱みて二十九日入札の如きは

▲多く不調 に了るに到れり之れ當局の豫算と今日の炭價の相違甚だしきためにして有力なる當業者の集積せるものあり仁川納入千噸の入札値段は三井物産は無煙炭を十三圓五十錢に村上商店は吉限炭を十三圓二十五錢に野口商店は撫順炭を十四圓八十錢に申出でたれども何れも豫算超過のため

▲再入札に附 せらるゝ筈其他群山へ七百噸及び鎭南浦へ八百五十噸又は未定鎭南浦へ噸の鐵道用炭は一千五百噸乃至千八百噸づゝ見當つかぬため入札希望者乏しく三井物産十八圓九十錢の申出でに對して今協定中なる由さも各地を通じて斯かる現象を示せるは

▲炭界稀有の出來事 と云ふべくしされば當局は其豫算範圍に於て別に適當の方法を講ずる筈

●精白米氣安持合

精白米は二十七日は二十一圓三十錢迄暴騰せし精白米も其後正米の反動安に連れて之又安氣勝となりさ雖各精米所は原料米の買物缺乏と相場暴騰の機先に臨むで狼狽買ふり此間何れも高値を以つて買入れし物多く且つは共後の原料市況は人氣安の割に相場下値ぶりの成行きにある爲め未だ白米相場を引弛む迄に至らず卸値は相變らず

▲十七圓見當 を維持せられ居れり一面小賣店に於ても地場精米所より買入れし高値の手持あるのみならず一時地場の熱狂[illegible]

●群山を初め仁川方面より精白の買附盛ん

に先行き案じて行はれ今後尚之等の高値掏排ふにんの引下げは火の苦痛にて成るべく此段の

値段の維持に努

め居れるが揉合ひい併しながら正米界の大勢振いて弱しさせば八錢的に現狀を維持する事難かるべし

●滿洲粟崩落

滿洲産地品薄の報に騰貴し續けたる粟ははからずも崩落して二十八日午後入電によれば海城は百五十三圓鐵嶺は[illegible]遼陽は三圓五十五錢

六十五錢となり二十五日の最高値に比べて各二十二三錢方の暴落を示すに到れるが十六日の底値よりはなほ三十二三錢見の値巾なり

●哈爾賓と雜貨

輸出雜貨類は先般來鐵道輸送不能の爲め意の如く商談運ばざりしと雖もカニバル祭前に於ては尙は必需注文を齎らし來れるもの少なからず輸送不能を唱ふる裡にも長春渡しの約定等にて相應商談纏りたるものあるが同祭休日中に鐵道貨車の增配行はれて長春其他の停滯貨物の大輸送となり哈爾賓市場の如き之にて大に物貨の調節行はれしに加はへて祭日後各品需要の一段落を告げたると同地一般の商況も沈衰不振に陷りたりといふ殊に萬端に關係あるものは單獨輸入等の沈着りにて各商人共警戒買控への念を萌ざし居れるもの丶如し皮革類中キッドボックス等の甲皮は同地方品缺乏の爲め依然買氣を進め居れるも底率に至つては作萬品今尚一掃せず且つ奧地にても差し當り需用として本品の微せられしもの多く賣上げ値段は非常に厲しくして代金は製年掃らひとの事にて地方商人一齊に手控となり從めに入荷至つて少なし元來露國市場への入荷は[illegible]高く且取引內容に付ても見本と注文品の一致せざる場合多き爲め約定期日の間に合はざる事時々不信の廉多く今後は同方面に於ける本邦製品の販路に付ては心あるものは大に憂慮しつゝありと

仁川米豆取引所仲買人
まるにち ㊐ 仲買店
電話 四二八二番 一八三番

●朝鮮雜貨夏物

鮮人向き雜貨類は何れも例年になき好況を以て春の問屋仕込みをなしたるが此秋季は中値高には拘らず賣捌け之れ類は新學期の需用過ぎて今一段の安にて之より豆物の時期に移りたるがこれまた概して人氣好きが如し主なる物を區別すれば

▲チヂミ 即阿波シヤラは例により灰色白色納戶色水色トヤ色の類望多く産地品拂底にて殊に色物手堅けれ分方の高値にて昨年より約一割五厘に競爭品なければ相應の荷捌けあり尤市中卸値二十ヤール三圓九十錢見當

▲タオル 綿絲高のため之また昨年より約三割方の高値に當るべし賣口々に一て捌けよきは尺一尺二の型にて六十四五錢より八十錢位迄色物二圓位迄

▲夏シヤツ 小賣りは未だし最近産地高のためまた値上げしたれば去年より一二割の割高にて打三圓內外の品向きよし

▲麻類 賣小盛りなるも市中品薄なる如く且綿糸高値の後を逐ひ居り且小賣り店も需用期短く持越しを厭れて手控ゐ勝なり

▲化粧品 各れとも未だ時期到らず石鹼は兩々の賣れ行き髮油の中製附の需用全く止りて香油の類之に代りつゝあり大抵安物のみにてレツテルによるものなし

▲蚊取粉 時節柄とて賣り立ちたるか昨年より割安にて市中卸値二十マル折一圓四十錢十マル百個五圓三十錢五マル同二圓九十錢にて需用旺盛なる見込

●淸涼水の其後

夏期飮料たる淸涼水の需用は年々增加の傾あり鮮人の嗜好も次第に擴まりつゝあるが之を類別すれば布引三矢サイダーシトロンダイヤモンド等の外市中製品としては尾印サイダー沖縄の勢力あり又大阪方面より移入品あるも銘より云へはラムネ手類

最も需用多き

は民族の[illegible]製造中にて賣り値もほゞ定まれるが瓶類藥品等諸材料騰貴のため皆相當の通り値上げして布引は一圓高の[illegible]

六圓見當三矢は一圓高の五圓六十錢シトロン亦一圓高の五圓五十錢又星印サイダーは四圓五十錢の卸値たるがラムネ手は去年通りの打三十五錢の限定なりと

●明魚太氣高し

明太魚は產地在荷薄の爲め頗る人氣强く相場は二十九圓位を唱へられ此處何日前に比し約三圓方の騰貴

春明太

又之に連れ高氣配にて二十三圓五十錢前後の賣買なり

●砂糖は氣丈

砂糖は日本糖强硬にて臺灣糖又氣强く爲めに市中取引も次第に氣丈を示し相場は

ヂリ〳〵引締め模樣

にあり昨今小口賣値はセーの十三圓を唱へられつゝあり

京城正米

左しも熱狂せし當正米市況も二十六七兩日に亙り降雨ありたると日本人精米所及び鮮人筋共に案外買附米多數によりたる爲め人氣一轉土曜日は五六十錢方相場崩落せしが共後賣人は作雨不足と前日來の高値警戒に兎角賣惜ぶりの體あり一方買人も進まざれば市況何となくボンヤリにて一般の人氣不引立ちなりと雖仁川正米再び幾分高模樣なるを傳へし尊拠沌の狀あり見當相場は上玄十三圓五十五錢中十三圓十錢下十二圓六十錢位なり

南大門の廻穀

仁川玄米三五〇叺 江景白米二〇〇叺
定州小豆 三六〇叺 群山白米一八九叺
仁川玄米三五〇叺 平澤白米一六叺
平壤白米二五〇〇叺 郭山玄米二七叺
平壤綠豆 二〇〇叺 仁川玄米三五五叺
沙里院玄三五五叺 仁川玄米三五五叺
仁川玄米二九六叺 仁川白米二九七叺
仁川白米 三〇〇叺 仁川玄米三四〇叺
若木玄米二七五叺 仁川玄米三五〇叺
仁川荏子四〇叺二十九

仁川現物市場

△籾入四五百俵 氣配變らざる人氣
△正米入津五、六百叺 氣配は一時降雨にて反動氣落を傳へたるも安直は各方面より買望みあり旁昨今稍小締り强人氣を唱へ居れりとの事
△大豆入津少なし

釜山穀物 (廿九日)

▲正米 (二十錢)高産地よりの出廻りは依然として勘く爲に當市場の物としては庫入品に過ぎざるも是又堅調ならず本邦定期米は十七圓門突破後小往來の商狀昨後場も變らず先十二錢との關あり當市場賣込人の依然として精米口の必需原料買にして移出口は買氣にし肝腎買望人の米口も昨今消渫地より相當正米の注文促し來ると見へ一齊に買氣引立ち買進みたれば市場活氣を呈し相場は前日の二十錢高に次で又々昇騰を前じ遂に二十錢高を報ぜり

生魚市場

(京城魚市場) 入荷前廢値引きたゝず建値如左 タイ二六モエビ三〇アサラ一七ヒラメ一〇ヒラソ一六トイタ八アナゴ九ニベ九甲イカ一三タコ一〇サバ一一

▲三十日 前場前場當限出來不申 中限⊖十二圓十七錢出來高二萬石先限⊖十三圓〆七錢八錢七錢六錢七錢⊜六錢⊜六錢七錢六錢五錢⊜五錢六錢⊜五錢六錢

仁川期米

▲三十日前場

兵庫前寄十六圓七十四錢東京十七圓三十二錢 大阪前寄十七圓十四錢と一

昨止より一錢高の入電

にて當地中十二圓八十七錢先十三圓〇七錢と一錢安に寄付八錢と擡げたるも賣物多くヂリ〳〵五錢と押したるが押目は手仕舞買物多く無難にも押さず

大阪四節十六錢

と小堅き移りなるも五六錢と保合の裡に納會

▲後場例休

市場零聞

▲納會保合ひ

天候前日の降雨昨朝に至つて霽れ今朝は天大阪の寄らざる入電に十三圓〇七錢と寄付八錢と擡げたるも④⑯其他より

▲受渡結了

三月限受渡は滯りなく本日を以て全部の受渡結了したりとの事にて第四回受渡は今明日の內に發表するとの事

▲新甫を迎ふ

多大の趣味を以つて迎へられたる六月限は案外變動少なく保合の裡に本日納會を告げたるが愈々七月限の新甫は一日を以つて發會すべく內地各市場は先高の必然を信じて五六十錢大上鞘を報じ居れる等にて連れて變動の大なるを思はしむるものあり然るに當地は大に事情を異にする者あつて每報せし如く六、七月は恰も大天災期に屆し降雨の多寡は忽ち其年の豐凶に大影響あり尤も趣味多き限月なるが本月下旬に至つて早くも雨不足を囃し一時大に買進りたるも前日來の降雨にて人氣稍や落付きたると同時に高値は寧ろ貸向はんとするあると例の正米緊きに壓迫を加へ來らん振り形跡あり前陣確に發衍するならんか前項の如く大天災期の限月なる丈又變動の度も激しかるべく一般の人氣は頗ぶる趣味を以つて新甫を迎へ居れり

▲新甫內氣配

新甫七月限は內地に於ては前天災期の限月なると先高理想の念强く大阪下の關共に

五六十錢の大鞘を報

じ居れり當限は前報せし如く大天災期の限月にて又意外の大上鞘を附するならんと思はれしに前日來の降雨にて一時買氣旺盛を極めたる鮮人側の客

筋も稍冷靜

となりたると同時に目先苗代の水充分になりたる

苗代の水充分

と悲觀せられし麥作の見直し等にて高値は寧ろ賣り向はんとする振り合に變じたる等內地の大三十錢乃至上鞘に比し

四十錢上鞘見當を唱へ居

れり併し明日に至つて大阪の入電に依り又如何に變動するやも計られず

手仕舞賣物多く

一面手仕舞買各店より顯はれたるも五錢と押し大阪跡小堅き移りなるも利かず六錢と放賣を告げたり市況は一時舉天續きに買募りたる人氣も前日の降雨にて

稍落付き

たると同時に又

復保合小相場

となり無氣付きの裡に本月の納會を告げたり

▲前場の手振

重なる商內賣買方④五千餘石⑤三千餘石⑥二千餘石其分手餘石等に對し買方の分各二千餘石⑦⑧⑨⑩各千餘石等にて他は小口商內であつた

▲④能く賣る

今前場同店より賣りたる玉數五千餘石に上りたりとの事一面千餘石の買ありたるも注目を惹いたり

▲㋣能く賣る

前場同店より賣りたる玉數三千餘石に上りたりとの事一面千餘石の買ありたるも注目を惹いたり

期米 仁川米豆取引所仲買人 仁川海岸町三丁目
㋚ 齊藤宗之助
賣買 電話長三六七・三六九 電略(サ)又は(ヤマサ)

仁川米豆取引所

三十日の六月限

前場	
寄付	十三圓七錢
止め	十三圓六錢
高値	十三圓八錢
安値	十三圓六錢
出來	一萬一千石

平均値段	
一節	十三圓七錢
二節	十三圓六錢
三節	十三圓五錢
四節	十三圓六錢
五節	十三圓五錢

賣買取組高

		比較
四月限	一萬五十石	
五月限	二萬八千六百石	
六月限		
二十八日後場		
前日		
	一三、〇〇八	一安
	一三、〇一〇	二安
	一三、〇〇七	二安
	一三、〇〇八	一安

讀者課題及募集規定
募集規程 ▲用紙は端書[illegible]

◆南北滿洲視察團畫報（十二）（上）東鄕坑百尺の大櫓から中程二階の撰炭場に廻り團員一同があらゆる機械力を應用した大作業場を見るところ、地下數千尺の坑内から引きあげた石炭をそのまゝ貨車に落す設備、坑内に風を送る設備廣き構内はあらゆる機械によつて動きつゝある（二十七日撫順にて所見）（下）廿七日午後四時四十分より撫順小學校々内に於て催ほされたる視察團一行の歡迎會茶話會の光景

◆北滿洲の朝鮮人

＝視察團の哈爾賓見聞記＝三＝

長春を出た視察團一行の汽車が廣い松花江河畔の原に行き暮れて車内の燭灯の灯影に露兵の銃劍が光る時列車の中には哈爾賓在留朝鮮人の總代としてお醫者さんの李珍玉といふ人が出迎へて呉れた、名刺には

◆朝鮮民共濟會々長 とあつて哈爾賓に於ける勢力家らしい、李會長は流暢な日本語で『ほんとによくおいでになりました』と手を差しのべてニコ〳〵する『何時こちらへ來ましたか』と訊くと『私の故郷は咸南の元山ですが明治廿七年十歳の年に浦鹽に渡り哈爾賓へは今から十年以前出て來ました、哈爾賓も戰爭のお蔭で餘程賑やかです……』と物語る、今度はそのお隣りの全致恒さんといふ二十四五の青年を見ると名刺には日露支貿易商山岡商行主とあつた『此の岡山とあるのは内地人のやうな名稱ですね』といふと全さんは默してニヤリと笑つた、此の人は

◆平安北道の人で 去年以來此地でコムミツシヨン商人を始めたのとであつた、其のうち汽車はアーク燈の灯影あかるき哈爾賓ステーションに著いたその明る日自分は遙かに松花江畔の鐵橋を眺めて居ると朝鮮人らしい二人の洋裝の人が一人の青年につれられて自分の傍に歩いて來た、美人は青年の妻君と妹らしい女である、物珍らしさにはなしかけると件の青年の家は京城の總督醫院の下で

◆三年前から此處で 商賣をはじめたといふしかも米國に本店を有つて手廣く商賣をやつてゐるらしい口吻であつたさらば現下哈爾賓に於ける鮮人の數は何人居るか試みに日本領事館の統計を見ると男一四四二人、女六七六人、合計二千百二十人の在留者となる、これを在留内地人の二千八百十三人と比べると稍々少數だがさして大差は見出されぬやうである、さらば

◆哈爾賓を中軸とし て遠く西比利亞露領の諸州里までの間に何人居るかといふと約三萬人の在留者がある、それに只今朝鮮人會なるものも創立中で近く領事部から認可する筈、日本帝國の日章旗の下にあるわれ〳〵新同胞はかくして盛んに北滿洲に堅實なる地歩を築いてゐる、次にまた鮮人の犯罪者は主として旅券僞造、モヒ密賣、阿片違反、乞食、恐迫等であるが中には間々殺人犯などもある、それから此の頃哈爾賓領事館には

◆歐露から保護輸送 なうけつ〳〵になつて歸る鮮人が多い、彼等は皆な支那苦力として人買ひの手に露西亞に賣られ約十日間も貨車にゆられ勞働に從事し一旦病氣となると人買會社から投げ出されるのである、左右すると行きには支那人に化けて旅券無しに濟むだのが道回は團隊を放れて單獨となつた以上旅行券がないので官憲に捕縛されて了ふ實に憫むべき狀態に陷るのである、朝鮮の總督府でも目下頻りに取締つてゐるが、それでも人買ひにつれられて行く鮮人が多いさうである（金谷生）

◉眼科の研究から世界語へ

逝けるザーメンホーフ氏

ワルソーの眼科醫にして世界語エスペランドの發明者たるドクトル、ルドヴイツヒ、ザーメンホー氏の死去せる事は既電の通りなるが右につきエスペラント語の大家黑板勝美博士は語るらく『ザーメンホフ博士が死去したと云ふ事は初耳である、それが果して事實であるとすれば語學上の

▽大恩人を 失つた譯だから愁傷此上もない事である、博士は千八百五十九年に露領波蘭國ビエロストク町に生れたのだから、今年は丁度五十八歳になる、私は千九百八年ドレスデンで博士に初めて會つたが小柄な極めて平民的な人で早口の人であつたやうに記憶する博士がエスペラント語の創作を始めたのは千八百七十八年の春の事で、當時博士は

▽二十歳で あつた、そして八年間研鑽の結果斯語を發表したのは廿八歳の時である、氏は大學で眼科を修めた人で語學の研究は其の傍に成つたものであるが、今は殆んど眼科醫の事など口にする者もなくなつて仕舞つた程エスペラント語は有名なものとなつてゐたが博士の令弟が昨年の暮戰死したと云ふ事は聞いてゐたが博士が突然死去しやうとは思つてゐなかつた事である、尤も博士は

▽歐洲戰爭 が初まつた頃から胃腸を害して永らく病床に在つた事は聞いてゐたが、最近ワルソーに博士を訪うた外人の手紙には餘程快方に近づいたといふ事であつた爲め死去の報を耳にしやうなどゝは思はなかつた、今思へば博士が晩年に到つてヘブル語から舊約聖書を飜譯して佛蘭西の雜誌レボーに掲載して居られた事は我々の最も多とする處である、何んにしてもあれだけの大家を黄泉に送つた事は悲しい極みである』云々（東京）

◉愛婦釜山總會

愛國婦人會釜山委員部は來る五月四日釜山座に於て會員の總會を開き會務の報告其他種々協議を爲し翌五、六兩日午後六時より釜山座に於て演藝會を開催する由なるが番組は左の如し（釜山）

（五日）一、開會の辭二、三番叟三、子供の手踊（忠臣藏三段目）四、劍舞五、捕鼠六、三曲（根曳）七、活人畫羽衣八、琵琶西行九、浪花節（石童丸）十、三曲（茶音頭）十一、茶番（印度人の逃跡）十二、尺八（きみだれ）十三、活人畫楠公十四、手踊（居付鏈）（六日）一、三番叟二、子供の手踊（子守）三、劍舞四、琵琶五、三曲（笹舟）六、活人畫（春日局）七、劍舞八、浪花節（五郎正宗）九、三曲（松竹梅）十、茶番十一、尺八十二、活人畫羽衣十三、手踊（忠臣藏七段目）

◉馬賊隊支那兵營を襲ふ

去る十八日夜馬賊十數名は局子街東方約七里挿春道路なる臨河左岸の小盤嶺支那兵營を襲ひ銃器彈藥を奪ひ去し

▲兵一名は死し 二名は重傷を負ひ而傷兵三名は其翌十九日局子街官立病院に收容せりとの報あり小盤嶺兵營は一排の兵員駐在し地方の馬賊に備り居れるも目下王系一派の馬賊討伐に官兵全力を盡し各駐屯地の兵力を殺ぎたれば同馬賊は其虛に乘じ奇襲を試みたるにあらざるか尚又同馬賊が王系一派のものなるや其邊の消息は詳かならざれども目的が銃器彈藥奪取に存し匪首王系一派の匪勢が目下琿春、寧安、東寧の三縣に跨り

▲討伐隊の奏効 遲々たるに徵せば或は其一類なるやも知るべからずとの説なり然るに局子街にありては同地軍隊は殆んど孟團長指揮の下に討伐に向ひ現在は兵力皆無に等しき狀態にて同地の警備は全然巡警に委せらるゝといふ有樣なるに馬賊局子街に殺到すべしとの諸言存りに到るより支那官憲は小盤嶺の襲撃に重を怠らず張道尹の如き夜は絶對に面會を謝絶し堅く門を鎖しをれりと（間島）

□曲水の宴

京都平安神宮神苑の流れに

㗊櫻かざして今日も暮しつと咏じたる王朝の大宮人を眞似た、春日遲々として盛んの櫻白く散り布く京都平安神宮神苑の流れに、有職保存會主催となり、彼の蘭亭の詩游に摸したりと云ふ曲水の宴催さるゝ

㗊四月二十四日は陰暦彌生の四日に當りかゝる催しには適はしき恰好の日なり、午後三時と云ふに會長淸岡子爵を始め猪熊淺麿、祝儀麿、中川四明、岡本橘仙、猪飼嘯谷、岩佐古香、林文學士、西行庵小文など歌人、俳人、畫家、文士、商人三十餘名來り會し、先づ神宮に詣で祭典を終へ休憩所に入つて一同衣冠束帶をなす

淸岡會長は點者として黑の袍猪熊副會長は赤の袍、奉行として臨阪白波瀬、伊達、北岡、井筒、松下、小西の諸氏衣冠し、其他は冠に狩衣姿の公卿となり、童子は桃色の狩衣美しく配膳が黄色の狩衣と立まじりて宛ら菜の花畑に桃の散りしく如く、神苑の樹間は恰も土佐繪の繪卷に似たりき

㗊やがて神苑の流れに沿うて配せられたる圓座に各々衣冠の姿を落ち著け仔細らしく宴の始まるを待つ、中には著も馴らはぬ衣冠姿の滑稽に宛ら喜劇のお祭を見るが如きもあり、いろ〳〵失錯の茶番も演せられつゝ黑白の幕打めぐらしたる樂舍より酒奇司酒胡子の雅樂聞ゆ、朱塗の觴は水のまに〳〵泛かび來る、宴に連る人々は各々その前に流れ來る觴を取り上げ中なる題を得て詩歌俳句己が好めるまゝに吟咏す、題の六つかしきに惱み滯れば桃色の童子は銀長柄の銚子を差出しその觴に滿々と酒を注ぐ、豚吟に惱みて觴の數次第に重り酩酊せる公卿達も少なからず、鳥羽の僧正が筆にも及ばぬ姿面白く、此日一日公卿たるべき約束も忘れオイ配膳などゝ呼はり曲水の宴に配膳や給仕はゐぬと叱らるゝなど藤原朝を脚色したる宛らの滑稽劇頗る可笑しく長閑なり。

㗊かくて薄暮の頃徂く春を惜める大宮人の歌除も崩れ一同沓を引摺り休憩所に引上げ衣冠を解いて現代の人となりボツと息をつく、之より何等拘束なき己がまゝの大宴始まり午後八時と云ふに一同散會す、この日京都滯在の樺山川村兩伯夫人外國人女學生など多くの見物あり、京でなくては見られぬ遊びなりと囁けり（四月二十四日夜京都にて齊賀生）

明君道中記

第百三十一席　田邊南龍口演

大久保彦左衛門、石川八左衛門の働きを見て居りましたが大きに喜んで彦『ヤア〳〵味方の人々安心したまへ、後陣に大久保彦左衛門忠教援へたり掛れ進め』と呼はつたり。是を聞いて乘松又四郎飛んで參りました此の乘松又四郎といふ人は大豪の武士でございます。殿中に於て伊達政宗を操仆したといふ位、當時政宗を討つなぞと云ふ人はあるものではございません。或日乘松又四郎が殿中の詰所に控へて居ると、伊達政宗が登城をするので此の詰所の前を通りました時に挨拶もせず行き過ぎたのを旗下衆が見て〇『今上つたのは政宗ではないか△『左樣〇『面の高い奴だな。我々が此處に詰めて居れば知れぬことは無い。一言の挨拶をして通るべきを無斷で行き過るとは不禮な奴だ、誰か政宗を打つ者は無いか』といふと乘松又四郎が進み出て又『拙者が撲たう〇『貴公が撲つたら今日の上席を讓るから又『宜しい乾度打つて見せる。打つたら上席を讓れ』と又四郎其の席を立つて廊下の隅に坐り込んで居りまする。伊達政宗は其處こそは知らず將軍家の御機嫌を伺つて御廊下を退つて來る、又四郎が手を突いて頭を低げて居る、其の前を政宗が行き過ぎた、又四郎頭を揚げ又『アイヤ暫く其處へお退なさるは伊達侯でござらう』と云はれて政宗顧眄て見たが一向に知らぬ人物、政『左樣如何にも拙者は政宗でござるが未だ御世許とは一面識もいたさぬ故何人にござるか一向存じ申さん又『知らんとあれば言つて聞せやう、旗下の乘松又四郎と云ふ者だ能く見覺ねて置け政『何か御用でござるか又『今御手前が御退りなさる時に今日は御苦勞さまでと挨拶をいたしましたに、何で一言の挨拶もなさらん政『是は恐入りました、何分御容赦に預りたい又『貴公は大々名我々は小身旗下侮て御挨拶を成らんので有う政『決して然いふ譯ではござらん又『一體貴公は面が高い。以後の懲戒に懲してくれる』と突如拳を固めて政宗の頭をポカ〳〵打つた政宗は後へ退つて小刀の柄に手を掛け政『汝小身者の分際として政宗の頭を打つたな、手打にいたしてくれん』と搔んとする時又四郎打笑ひ又『是は面白い、さア拔て斬れ、殿中に於て刀の鯉口を切たとあらば家名改易六十二萬石の仙臺の家を脊負て立てば乘松の面目だ、さア何處でも拔て斬れ』とドッカと坐して首を差し伸べ覺悟の樣子、茲で拔て斬れば家が潰れるのであるから政宗も考へたと見ゑて手を突て詫入り其盤下拔いたしました。乘松は大手を振つて元の詰所へ歸つて參り又『何うだ察から何う政宗の頭を打つた。〇『イヤさア約束だから上席を讓れ』と此の男豪いことをしたと云ひたいが亂暴な人物だ』と同役の者も驚いた其時には大層宜かつたが是から一月ばかり經てのこと、土井大炊頭の屋敷にお芽出度ことがあつて諸侯方を招待いたす、其時の上客が伊達政宗である政『今日は旗下衆もお招きに預つたといふことであるが、乘松又四郎を招で下さい』と聞いて主人の土井大炊頭が早速乘松又四郎を其處へ呼出し政宗に紹介せる、此時政宗は又四郎に對ひ政『アイヤ乘松過日は殿中にて政宗は面が高いから以後の懲戒懲うしてくれると頭を打つたが意見の舉今に忘れぬ、其時の禮じやによつて之を受けて下さる樣にと盃に添ゑて小刀を取出し乘松又四郎に下さる、流石の又四郎も此時には赤面いたしました、政宗は扇を取て立上り打てや犬坊叩けや犬坊と五節糊付の舞をいたしたと云ふ實に大器量人でございます

曆

五月二日　九星　舊三月十二日　甲辰　本命八白　艮除　友引

▲八白 使ひ事ある日なれど新事見合はすべし ▲九紫 遠方なる日轉居行き入門は吉 婦人相談事は吉 ▲一白 ……▲二黑 ……▲三碧 ……▲四綠 ……▲五黃 ……▲六白 ……▲七赤 ……

□演藝案内

御成座　御成町　電話二一九一

▲第十三回芸題 一、歌師氏作月下の人影 全八場 二、手と足 全二場 （イロハ順）石谷勝之助、花岡香川、上源太郎、高松正、池田時男、矢野勘次郎、小松春夫、淺川明、喜多村一水、三島龍、清水徹、平野一郎、小役小静、春子、静間三郎

大正館　櫻井町　電話八七三

日本活動寫眞株式會社朝鮮代理店
△四月廿七日より新寫眞提供 ○喜劇長崎小町人穴お糸（全四卷）○滑稽寄天井 ○軍事活劇第九快漢ロロー ○新派悲劇『破片』（全四卷）

有樂館

京城本町一丁目　電話二〇五番
二代目桃中軒雲右衛門襲名披露興行
△四月二十九日より五日間限り
▲初日讀物▼ ▲義烈百傑談義（桃中軒雲右衛門）▲德川天一坊（木村榮次）▲五郎正宗（桃中軒雲二）▲赤垣源藏（吉川小辰二）▲紀伊國屋文左衛門（京山花右衛門）▲木村又造 ……
▲入場料 △一等一圓二十錢 △二等八十錢 △三等五十錢 △軍人小人は各半額
◎五月四日より活動大寫眞と大餘興 期待せよ内外共に充實せる有樂館

浪花館　明治町　電話二六〇

▲東京大阪合同落語大一座 ……

黄金館　電話二六三七　六五二

天然色活動寫眞株式會社京城釜山一手代理店
△四月二十七日より新らしく ▲世界的大滑稽リチーの逃走 ▲舊劇『姐妃のお百』（全二卷） ▲大アンブロジオ會社作 ▲泰西社界劇『母と別れて』（全三卷）

致富之栞‼進呈
營業所（堂島濱壱丁目）大阪堂島米穀取引所仲買人
今延商店
電話西　北四六八番　北四六九番　北四七〇番
振替貯金口座
發信界號（イマ）
註冊受信電略（オサカイマエン）

解雇廣告
三倉商會出張員加藤政次郎儀都合に依り四月十五日限り解雇仕候間今後一切關係無之候右廣告候也
東京市本鄕區東片町　三倉商會紙店

母ヨシ儀郷里に於て病氣の處養生不相叶昨二十九日死去仕候間此段謹告候也
四月三十日　在鳥取縣氣高郡寶木村
田中遷
友人　國分象太郎
　　　武藤文吾
總代　權藤四郎介
　　　小田留吉

中將湯
世界第一といふ言葉
近頃の、廣告を見ますと、むやみと「最良」「一等」とか「理想的」「新發見」などと、有らむ限りの強い字句を用ひて居ります。從つて讀む人は、廣告の文句は誇張(やま)に書かれたものと、割引して見なくてはならぬ、有様であります。然し中將湯が婦人病藥として、「日本一」より「世界一」の地位を、占めて居ることは、誰も知る通りの事實であります。何故に中將湯が、斯くまでの盛名を、天下になしたかと申ますと、そこが本劑の眞價の賜であります。ヨクキクからヨク賣れる。これが今日の如き榮譽を中將湯に與へたのであります、本劑の如き靈藥にして、初めて「最良」の藥劑と云ひ得るのであります
私の家では
頭向を變へて
鯉幟にはこの通り
婦人良藥
中將湯
それは靈藥の効驗にて
血の道婦人病が全治して
出來た坊やの初節句だから!
主治効能
◎子宮病子宮内膜炎にて白帶多く腰たいれ又下腹腰足の引つり痛む人
◎婦人神經(ヒステリー)血の道にて氣鬱ぎ癇高ぶり動悸を苦し夜眠らず
◎月經不順月經滯り等にて吹出物多く又何んとなく身體懈き人
◎逆上頭痛眩暈し肩こり腰足冷る　◎息切れ動悸烈く手足痺れ水腫
◎十七八歳になつて月經なく血ぶどり又月經の前後に下腹痛む人
◎白帶赤帶滯下多く顏色蒼白き人　◎冷症にて難産流産の癖ある人
◎産後何となく常ならざる人、嘔吐、産後古血の滯り或は日立惡く
◎此外子宮血の道月經不順に起因する諸病にてぶらぶらと惡き人
定價
二日分　廿錢
四日分　卅五錢
一週分　六十錢
二週分　一圓十錢
三週分　一圓六十錢
五週分　二圓五十錢
十週分　四圓五十錢
加減劑あり御相談申し(御申込みあれ)
一週分　七十五錢
四週分　二圓五十錢
婦人衛生手引
御申込次第無代進呈
(但要郵券二錢)
本劑には、全國有名大醫三拾有餘名の實驗證明あれども、活きたる證言は、千萬言の能書に優る、千萬人の愛用者に、聞かるべし、
本舖
東京日本橋通四丁目(電話本局六二番六三番)
津村順天堂本店　振替口座六〇八番
大阪堺筋大寶寺町(電話南二十五番)
津村順天堂支店　振替口座大阪四五六番
●中將湯は世界各國至る處の藥店に販賣す市内配達無料

京城日報

五月一日 (夕刊と合せて八頁)

本紙定價 一部金五錢 一ヶ月金五拾錢 … 廣告料 … 發行兼編輯人 奧田直毅 印刷人 小川三之助 發行所 京城太平通一丁目 合名會社 京城日報社 電話 …

統一主義　京城日報

今日政治家及び學者が、有らゆる方面に於て統一を說くもの、皆其諸機關の統一を保持し、諸事業の連絡を全くすべきことを主張せざるなし。蓋し、統一即ち共働相助は經濟上の鐵案にして、個人の事業は、組合に由るにあらざれば、其功程を全くする能はず、會社事業は『トラスト』『カルテル』を得ちて、其利を專らにすべし、植民地又は國外に於ける經營施設に、統一を求むるは固より其處たり。最も歐羅巴諸國政治家及び學者專門家は、理論として統一主義の甚だ可なるを認むるも、實際上、甚だ行はれ難き場合あるを以て、已を得ずして其宜しきに從ふの實あり、例へば英吉利又は佛蘭西のごとく、全世界に渉りて其領土散布し、其風土物互に相同じからざるもの多し、從つて此に就て統一主義を說くも亦空論に終らざるべからざるなり。然るに我日本は則ち如何、我朝鮮は我對外經營の根軸なり、滿洲蒙古は則ち其の接續地なり、山東省及び支那の一部亦、相呼應するの間に在り、其事業經營の性質相同じく、其風土事物甚だ相近きものあり、即ち是れ統一主義を行ふ爲めに、有らゆる條件を、具備するものと云はざるべからず。我は則ち理想的に完全に統一主義を、實行し得べき地位に立つものなり。

吾人嘗て、我對外金融機關統一策を主張し、我朝鮮を中心として、朝鮮滿洲蒙古北支那諸地に對する、銀行組織を定むべきことを、詳說したることあり、蓋し、銀行又は其他の金融事業は、之を統一すると最も容易にして、且其共働相助の効果最も著しきものあり、他の經營施設の統一を離する場合にあらんも、金融業だけは、其連絡組織を成すを得、佛蘭西が交趾支那銀行と、本國との連合を密にするのみならず、其支那に對する金融事業の根據を此に定め阿非利加諸地金融機關、同根連枝、互に相依るの實あるに鑑みるも、我對外金融機關の統一は、極めて自然にして、且容易なるを知るを得べし、最近世間、朝鮮滿洲鐵道統一を說くものあり、是れ亦、吾人の素論と相一致する所なり、過般三線問題なるも甚だ喧しきに當りて、吾人は其論者を以て全く無益なりと爲し、速かに其本に反り、朝鮮滿洲の交通機關を整理し、統一して、其功程を全くすべきことを主張したり、或は云ふ、三線各々利害を異にするものあるを如何せむと、然りと雖も若し其の相異なるより云はゞ、同一鐵道の本線支線、其利害を相異にするのみならず、甲驛と乙驛と其利害を同くせざることも亦有り得べし、然れども鐵道業は其線路の長きと、其營業區域の廣きとを以て勝ち、復た小利害を問はず、是れ小鐵道會社は、大鐵道會社に若かず、孤立せる大鐵道會社は聯合せる大會社に若かず、會社連合よりは寧ろ、國有的大一統を以て優れりと爲す所以なり、特に我朝鮮と滿洲との諸線斷間に、利害を異にするものありと云ふは、畢竟其營業機關を分立せしむるより生ずるの結果に外ならずして、機關其ものを一統するあらば其利害の衝突、亦自ら消滅すべきなり。

歸路一束　蘇峯生

再び金泉驛より啓上。扨も昨廿日は拂曉より興丁、馬夫共に逍遙せられ、「名殘惜しくも」海印寺を出立したるは、午前八時也。寺僧及び寺に附屬する學校生徒等、何れも山門迄相送り、別を惜み候。少くとも此方よりは別を惜み申候。歸途は概ね降りにて、足取りも疾く、龍山に到著したるは、未だ正午前三十分を出でざりき。此處にて附近の松林を散步し、小憩し候。一昨日滿開の杏花も、今は散りて痕を止め不申候。此の邊豺害頗る多く、爲に一頭十五圓の懸賞にて、捕獲を奬勵致居候趣、本日も七匹の豺兒を生捕りたる由にて、憲兵出張所に留置有之、即ち我等は對兒の瞬室にて、千錢を與へ候。陝川の長谷部分隊長は、東京への土産に、一疋持參せずやとの好意なりしも、此丈は平に御免を被り候。古人も豺聲蜂目と申候通り、如何にも其の嶮遊が凄く候。午後三時頃超過を遂し申候。居昌には、三時頃に到著、直ちに自働車にて、營州街道を過ぎ、建溪亭を見物致候。水石相爭ふ所、小亭あり。是れ亦た一勝也。此れより居昌の諸官衙、學校等を見物し、一夜兩脚を伸ばして安眠致候。

二十一日は、又た惡筆の揮毫をなし、午前八時に居昌を發し、十七里の行程を、十時半に金泉に到著、今夜釜山より上船、明朝は馬關に上陸。廿三日は故石井十次君の爲めに、一日を岡山に費し。二十四日の午後には、東京に歸著可致候。此れにて今回の朝鮮通信は、打切と可致候。只今來客あり、且又本日は當驛の市日にて、鮮人群集に就き、汽車發迄の時間を利用し、見物に出掛可申候間、此にて擱筆致候。但だ心に掛るは、選擧の結果に候。總體の勝敗も勿論なれども、數多き友人等の當落奈何に候。匆々不一。

大正六年四月廿一日正午前二十五分、京釜線金泉驛にて

遊支所感

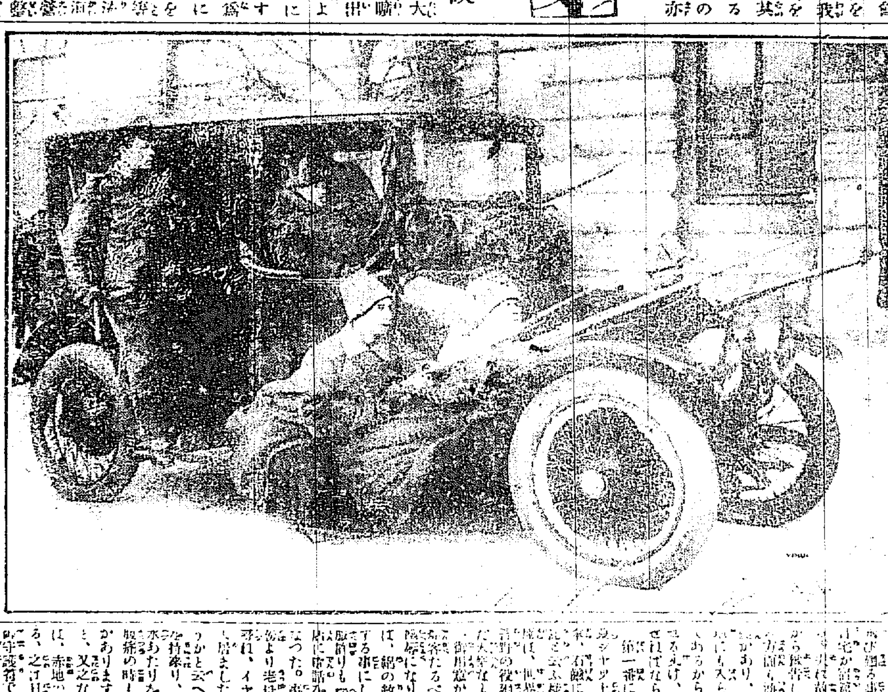
(二) 支那概觀　韓相龍氏談

△南支と北支　支那は所謂大國にて鐵道沿線の如きも洪漠たる曠野數千里に亘り太陽は眞に畑より出で畑に入るの觀あり、殊に北京より河南鄭州に至る間に在りては目に一山を見ずまた一樹の眺めなし、要するに北支那は蒙古沙漠の延長狀を爲し畑の如きも沙漠性を帶べるが故に風一度到らば黃塵萬丈全く咫尺を辨ずる能はず、加之黃河附近は何等護岸の設備なく黃河出水を見ば忽ち氾濫して南北數千里に亘る大海を現す、また田に在りても其の經營的大ならざるもの丶如し、然れども設備せりと雖も之が收穫を質せば比較的大陸的にして且つ耕作の方法甚だ幼稚なり、鄭州を去る十里許の以南よりは山あり、畜ありまた竹林あり、四邊の風光宛として日本內地の如く、而かも畜には水利灌漑の便備はり地味肥沃にして收穫の如き亦た內地に比するも敢て遜色を見ず

△東洋の寶庫　從つて支那の物產は南方に偏し北方は貧弱なり、即ち北滿地方に在りては彼の滿洲特產物、北支方面に在りては高粱、大豆、食鹽及び棉花等に止り、また山地は樹皮、牛は山東省に限らるゝの狀態なるも、南方に至りては米は勿論棉花、茶、生絲其の他各種の產物極めて豐饒なるは世人の熟知する處の如し、南支は實に支那の一大富源地たると共にまた東洋に於ける無比の寶庫と謂ふを得可し、斯の如く北支は南支に比し天產上多大の軒輊あるが故に人民の富力に於ても自ら差違を存し北方の人民は稍貧弱の感を免れず。されど彼等は生活程度甚だ低く活性に富み且つ勤儉貯蓄の念熾なるが、南方の人民は之に反して資澤に耽り活動を厭ぎ又た射利冒險的事業を好むの癖あり。

△財力の均衡　據支南北支人の財力を觀言せば個人の富力に於ては共に平凡なるも日本若くは歐米諸邦の如き巨萬の富者なく巨萬の富者を見ず。彼の政治家として、經濟家として將たまた事業家として名聲を一世に擅せし支那無二の長者と呼ばれし盛宣懷に在りてすら其の死後發表せる財產は僅々二千萬圓に過ぎざりき。但し三百萬若しくは五百萬の財產家に至りては各地に於て之を認むるを得可く、又た滿洲戰亂勃發の結果上海方面には一躍五百萬圓を贏ち得し幸運者あり、齊南には牛皮の取引に依つて數百萬圓の成金を出せし事ありといふ

露國革命畫報(一)　市內警戒の自動車



露國の大革命は三月八日パン問題に端緒を開き十一、十二と十三日と續けて最も激烈なる市街戰が行はれたが十二日に臨時政府が組織せられ十五日からは殆んど平靜に復した、是は其の當時革命派の自動車が武裝の大學生及び軍人を乘せ市內の警戒の爲め巡邏しつゝある光景で一時に斯際自動車が數百臺の多數に上つた、何れも革命派の所有者が自ら進んで提供したもので、大學生指揮の下に革命の赤旗押立てつゝ勇ましく市中を疾走した、自動車の內部及右側に學生帽を被つて居るのは大學生で裝塡銃を手にし自動車の兩側に横はつて居るのは革命軍に投じた軍人である(小田生)(三月二十五日ペテログラードに於て)

對滿投資一億

現政府は既定の親善的對支外交政策に向ふて邁進し滿洲經營の如きも其方針を純乎たる經濟發展に置きて投資を斷行する事とし先づ南滿製糖會社の一千萬圓、滿鐵製鐵所の三千餘萬圓其他製麻會社等併せて一億萬圓を確實に滿洲に放資せしむる筈なり製麻栽培は他の穀類に比し遙に有利にて甜菜栽培と共に滿洲農界の大福音たるべく前途甚だ有望なる爲め政府に於ても大に之を援助する筈にて其工場は多分奉天に設置せらるべしと傳へらる(奉天)

南洋見物

(1) 出發準備と母の餞別　淺岡重喜(投)

朔風颯々として面を割り、寒氣凜々として指をも墮す嚴寒、寒暖計は晝間に於て零度以下十七度を示し、夜に入つて更に三十度に下る、京城の天地は恰も死せるが如く、市中の往來も稀に寂寥を極めた。本年二月の初旬、急に南洋の熱帶地を視察すべく思ひ立つた。[illegible]

日報詩壇

[illegible]

夫婦問題號

婦人之友 五月號

夫婦の仲 (世慣れ人情を穿つた夫婦觀) 三宅博士

生理學から觀た夫婦問題 大澤博士

統計から觀た結婚と離婚 二階堂統計官

夫婦間の問題 (實例總て九篇四十頁にわたる一大讀物各篇共に羽仁主筆の明快にして溫情に富める批評を添ふ)

▲夫の節操に對する妻の不安
▲夫の不品行はなほらないでせうか
▲夫を敬ひ得ぬ勝氣な妻の悶え
▲働きものゝ夫と病弱な妻と
▲冷淡な夫と自分を愛する從弟と
▲相愛の夫婦に子なき苦しみ

實家と夫との板挾みに爲つた時 加藤夫人
姑と同居した私の苦がい經驗 淺田夫人
養子娘である私の苦心 田中夫人
お產の前後は夫婦間の危機 某夫人

實用的の讀物
▲誰にも出來る家庭の縫り方
▲此頃大流行の絹ざしの仕方と圖案
▲便利な洗濯物の設計懸賞當選發表
▲花子いる學資は何處から出ませう
▲家庭で出來るおいしい菓子の色々
▲和洋の調和のよくとれた住宅の圖
▲新工夫の束髮の結ひ方圖入說明
▲佐久間醫學士 產科婦人科問答

滿載
長編小說 若草 (愈佳境に入る) 佐藤紅綠
歷史小說 淀君 (波瀾更に重疊) 中里介山
翻譯小說 放蕩息子 松本雲舟

▷定價廿錢 郵稅一錢 五ヶ月一圓 半年稅共一圓廿錢 東京雜司ヶ谷 振替東京一一六〇〇 婦人之友社◁

移轉廣告

今般京城大和町一丁目四十四番地に移轉致候

株式會社 大倉組鑛山部京城出張所
元京城長谷川町五十八番地

買鑛廣告

金、銀、鉛、亞鉛、銅鑛買入開始

荷受場所は京釜線鷺梁津驛

鉛亞鉛鑛は混合又は低級品位のものも取扱可申候

京城本町二丁目
神戶 合名會社 鈴木商店
京城出張所鑛業部
電話 一四二三番 二九二四番 三三九〇番

四月二十五日より五月六日まで 南大門 龍山 より 倉洞行往復切符發賣 三等 四十五錢 二等 八十錢

五枚以上の御申込に對しては南大門龍山より直ちに配達す

四月二十九日(日曜日)に限り南大門倉洞間に

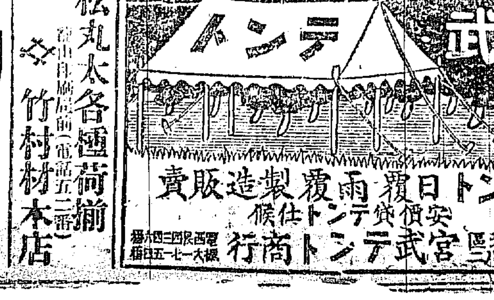
牛耳洞觀櫻臨時列車運轉

ゆき 南大門發 午前 八●四三 龍山發 同 八●五二 倉洞著 同 九●三〇
かへり 倉洞發 午後 三●四〇 龍山著 同 四●一六 南大門著 同 四●二五

臨時列車は三等客車のみにして雨天の場合は中止

朝鮮總督府鐵道局

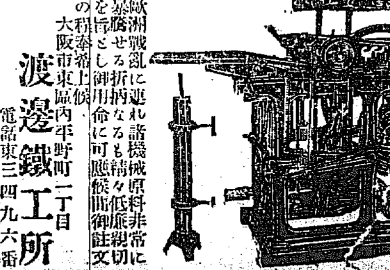
松丸太各種荷揃 龍山停車場前(電話五二番) 竹村材木店



宮武 テント 雨覆 日覆 テント 製造販賣 安價貸テント仕候 大阪南安治川北三 宮武テント商行 電話西三四二六番 振替大阪一一七五五番

大口歡迎 **質** 京城黃金町長橋町入 電話二九一六番 田村質店 商品擔保便利取扱

特許 第三七三九三號 實案 **印刷機械**



◎歐洲戰亂に連れ諸機械原料非常に暴騰せる折柄なるも精々低廉親切を旨とし御用命に可應候間御註文の程奉希上候

大阪市東區內平野町二丁目 渡邊鐵工所 電話東三四九六番 振替大阪四七〇二番

◎グ國對獨斷交發表

南米グアテマラは獨逸との國交を斷絕し獨逸公使に旅券を交附せり（紐育電報）

◎希臘國內形勢不穩

露國の革命に刺戟され希臘國內形勢不穩の狀を呈し革命の勃發は到底避け得ざると共に國內分裂の兆あり（倫敦電報）

◎英佛軍の奮戰振り

英軍は目覺き攻擊を行ひヴイールを占領し更にオピー村落の半部を其の手に收めたり佛軍は四月十六日以降重砲野砲合せて百七十五門機關砲四百十二門塹壕臼砲百十九門を鹵獲し二萬七百八十名の捕虜を得たり（倫敦電報）

◎邦人警察顧問傭聘

張督軍は鄭家屯に日本人の警察顧問一名を傭聘することとし既に決定したるが更に奉天に高級警察顧問一名を傭聘せんとし我官憲に對し優秀なる人物を要求し來りたるを以て官憲にては目下其の人選に就き愼重詮衡中なり（奉天特電）

◎陸軍當局と支那視察
一面日支親善に基く自然の數

陸軍當局の支那視察に赴くもの近時多きを加へ來りたるが右に關し某將軍は語りて曰く我が陸軍の使命は日本本土は勿論滿鮮の防備を完うすると共に支那保全にあるは言ふ迄もなし併し亞細亞大陸は歐洲諸國の經濟戰場たるのみならず更に政治上の場面たるは到底免るべからず而して兵力は我が國是遂行の實力を示すの時に際し備ふべきは勿論にして之れが準備としては日本自身の國力向上と支那の自覺自疆に連れ兩國の親和に俟つの外なし支那の自覺自疆を望むは前途遼きに似たるも我が軍事教官の招聘其他の方法によりて支那自身の陸軍力を增進し更に兵器改良に努めんには日本の增兵能力を增進する手段をも兼ね聯て支那を保全する有効手段たるを失はず日支親善は現內閣の方針なり從つて陸軍の將官をして自ら實地踏査を餘儀なからしむるもの之れ自然の數のみ（東京特電）

◎英蘭未墾地拓開

英蘭及び威耳斯にて此の季節中三十萬エークルの未墾地を耕し穀物を植ゑ付けたるが明年は更に三百萬エークルの未墾地を開拓すべき計畫あり（倫敦電報）

◎內大臣は松侯か
親任式近し

松方侯爵が故大山公の後を繼ぎて內府に入るべき事は波多野宮相出張中の爲め懸案となり居りしが宮相も歸任したれば松方侯も優渥なる思召と山縣老公寺內首相の懇切なる勸奬に依り愈々大命拜受に決したる模樣にて近日中に親任式あるべし（東京特電）

◎滿鐵事業豫算

四月廿九日政府の認可せる滿鐵大正六年度事業豫算は二千三百十二萬九千百六十六圓にして前年度に比し千八十萬四千三百六十七圓の增加なり此の中鞍山站製鐵工場費八百十五萬三千二百十六圓は增加額中の大部分を占め殘額二百六十萬圓餘は鐵道地方營造物土地建物諸費等の割當增加し電氣瓦斯は減額せり要するに本年豫算は鞍山站工場新設に傾注したる形にて爲めに港灣設備年度割豫算二百三十萬圓を減少し大連築港完成期大正七年度を一年延期するに至りたるは遺憾なり（東京特電）

◎殖民教育研究
研究員を滿鮮に派遣

仙臺多額納稅者齋藤善右衛門氏は殖民教育の研究を必要ありとし今回資金を出し宮城縣下小學校長梅良三、平田權太郎の兩氏を滿鮮地方に派遣し研究せしむることゝしたるが兩氏は五月五日下關を發すべし（東京特電）

◎聯合教育大會

第十一回全國聯合教育大會は五月五日より七日迄一ツ橋教育會々堂に於て開會さるべし（東京特電）

◎輕鐵臨時總會

朝鮮輕便鐵道會社にては三十日午後臨時總會を開き釜山に在る本社を大邱に移し續いて定款改正の件を可決し散會せり（東京特電）

◎辭令

三十日左の如く辭令ありたり（東京特電）

任朝鮮總督府判事　長濱區裁判所判事　川野邊四郎
任朝鮮總督府判事　名古屋地方裁判所檢事　別所大
任朝鮮總督府判事
依願免本官　朝鮮總督府技手　地調査局監査官　平野與入郎

◎藤井檢閱使東上

藤井特命檢閱使一行は四月三十日朝軍艦滿洲にて臺灣より歸來直ちに東上せり（門司特電）

◎總督一行動靜

長谷川總督一行は三十日午前十時三十分光濟丸にて元山に入港道長官府尹、稅關長等の出迎を受け午後一時稅關棧橋より上陸車を聯ねて旅館大東館に入れり尙一行は翌一日各官衙軍隊を巡視し二日出發釋王寺を視て歸任の豫定なり（元山特電）

◎宇佐美長官開島行

宇佐美內務部長官は總督一行に別れ三十日元山發開島に向ふ（元山特電）

◎棉作十年記念

全鮮唯一の棉作地たる全羅南道に始めて陸地棉を栽培せしは明治三十五年にして本年は恰かも其の十週年に相當するより木浦商業會議所は來る五月十二日を期し棉作十週年記念會を催す筈なるが當日は豫て松島公園內に建設の記念碑除幕式を擧行し七時より公會堂に於て祝宴を催すべし尙ほ十三日は特に小學校講堂に於て講演會を開く筈なるが講師として水原模範場本田博士及び總督府農務課中村技師外數氏出席すべく記念會參列の來賓は全鮮各地を通じ數百名に達すべしと

◎甜菜製糖の經營は
―軈て鮮人生活の向上に資せむ―
藤山日糖社長は語る

大日本製糖會社々長藤山雷太氏は同社常務高山長幸氏と共に三十日入京したるが氏は車中にて語りて曰く

▲九州の製鋼計畫　朝鮮へ來たのは殆んど今度が始めてと云つても良い位で、尤も一昨年一寸寄つた事もあります、渡鮮の途中九州に立寄り大牟田附近の炭坑等を調査して來ました丁度此度私等の方で大製鋼所設置の計畫が有り、工場用土地の選定其他の用で行つた譯です場所は決定した譯では無いが兎に角關門附近に設置する計畫である

▲甜菜製糖計畫　甜菜栽培に關しては御承知の通り已に總督府でも數年來試作もやつて居られる事で朝鮮の農業としては實に恰適したものと思ふ、元來が甜菜を栽培して製糖事業を行らうと云ふのですから廣大なる土地を必要とし從つて全部會社の方で所有すると云ふ事は到底困難の事で勿論一部は社の方で持つ事にしますが大部分農民を使役して耕作し甜菜の栽培を奬勵し之を買收して製糖する考へです資本金は五百萬圓ですが殆んど全部は內地よりの出資で朝鮮から出資を仰いだのは極めて少額です、いや出資者が朝鮮に無いと云ふのではありません朝鮮で發起人に爲つた人もある位で株式の應募者は夥しいものである、會社の工場設立地の如きは目下選定中で平壤附近には二三の候補地もある位で已に數人の技師等を派遣して專ら之が實地調査中です之が爲めに私も態々出て來た樣な譯です

▲事業經營と鮮人　元來朝鮮に甜菜栽培をやるのは單に會社の利益と云ふ樣な事のみよりも地方の經濟狀態を一變させ度いといふ譯である、新政以來勿論朝鮮人の生命財產等は確保された事でしやうが單に確保すると云ふのみならず進んで其の富を增し其の生活狀態を一層高めると云ふ事は非常に緊急な事であると思ふ現に私等の關係せる製糖會社が臺灣に於て作業經營するに至りてより以來臺灣土民の生活經濟狀態は云ふ迄も無く其の民心にすらも多大の好影響を與へて居る現況である、兎に角此度は內地から多くの資本を集めて朝鮮に新事業を計畫する事だから總督府其他大方の御援助を切に願ひ度い次第です、何れ詳しい事は京城に著た上寛くりお話致しませう

◎京畿地方費豫算

京畿道大正六年度地方費豫算は三月廿一日附にて認可ありたるが其の歲入出は七十五萬五千百六十五圓を算し之を地方費及び恩賜金所屬に區別するに前者に在りては三十八萬三千七百四十一圓後者に在りては三十七萬一千四百二十四圓となり之を大正五年度に於ける地方費の三十九萬五千八百四十九圓及び臨時恩賜金三十四萬二千四百五十一圓計七十三萬八千三百圓に比するに地方費に於て一萬二千百八圓を減少したるも恩賜金に在りては二萬九千三百十六圓を增加し總計に於て結局一萬六千八百六十五圓の增加を見るに至れり左に歲入出豫算の內容を示せば

▲歲入經常部
第一款　賦課金　一二三、五三八圓
第二款　臨時恩賜金受入　一三五、八六一
第三款　雜收入　一八〇、五二六
合計　五十一萬九千九百二十五圓

▲歲入臨時部
第一款　繰越金　二四、九五七
第二款　臨時恩賜金受入　五八、一六四
第三款　國庫補助金　一五一、九八九
第四款　雜收入　一三〇
合計　二十三萬五千二百四十圓
歲入部總計　七十五萬五千百六十五圓

▲歲出經常部
第一款　土木費　五六、七二〇
第二款　衞生費　三、七四五
第四款　勸業費　五六、九四二
第五款　授產費　二〇七、三八一
第六款　教育費　一七、一四六
第七款　繰替金　三〇〇
第八款　地方費取扱費　一二、五一一
第九款　豫備費　五三、一三九
合計　四十二萬三千六百二十圓

▲歲出臨時部
第一款　土木費　二六、〇一九
第二款　勸業費　五、七二五
第三款　授產費　一三、七八〇
第四款　補助獎勵費　二七二、五四九
第五款　雜支出　二五〇
第六款　臨時恩賜金繰戾　一三三、二二二
合計　三十三萬一千五百四十五圓
歲出部總計　七十五萬五千百六十五圓

◎模範兵に賞詞

御慰問使內山大將の巡視に當り大田步兵第七十九聯隊（大田以外の駐屯部隊を含む）內に於て模範兵として特に御慰問使より賞詞を受けたる下士卒は左の如し（大田）

第六中隊要塞稻源常助▲第八中隊同鹽田乙三郎▲第十二中隊同原脇松▲第十一中隊同松本金藏▲第十一大隊本部同山中要▲第二中隊同大月政治▲第一中隊上等兵横山次郎▲第三中隊同渡利正雅▲同上等看護卒村上勝大▲第四中隊上等兵內藤幸藏▲第五中隊同安岡利重▲第六中隊同安武良男▲第七中隊同藤井長十郎▲第九中隊同岩宮準三▲第十二中隊同三島芳一▲第二中隊一等卒松島仲藏▲第十中隊同河島彌左衛門▲第八中隊二等卒高橋國英

◎東拓重役會議

今明日決算其他重要事項に關する東拓重役會議は二日開會し本會に於て利益配當總會日等を確定すべしと

◎藤山日糖社長
高山常務と共に入京

大日本製糖會社々長藤山雷太氏及び同社常務取締役高山長幸氏德田一直氏の一行は卅日夜九時南大門驛著列車にて入京巴城館に投宿せり京城に兩三日滯在の上平壤に赴くべしと

◎島東拓監事入京

大阪に於ける東拓監事島德藏氏は今回社用を帶び夫人帶同三十日午後九時南大門驛著列車にて入京天眞樓へ投宿兩三日滯在の筈

◎原田朝郵社長東上

原田朝郵社長は同會社の要務及び日本郵船會社重役會議並に定時株主總會出席のため一日午前八時三十分南大門發東上の豫定

◎河合鮮銀司事著任

拓殖銀行樺太支店より朝鮮銀行司事に轉任し來れる河合梅三郎氏は廿九日夜著任したり

人事消息

▲石田新太郎氏（明治炭礦社員）三十日入京城ホテルへ
▲安武千代吉氏（辯護士）佐々木清綱氏（辯護士）西田梧楼氏（辯護士）同上不知火へ

支那遍歷
西湖の春（五）　中島生

四月一日午前八時半、日本領事館の好意により派せられたる、通譯喜君の道案內にて、旅館を發足し、湖畔周遊と出かけ申候。何しろ、名所古蹟に富める西湖の事故、詳しく見れば、一日や二日で足る筈なく、况んや半日にして見物せんとするに於ては、要するに只だ大急ぎに車を急がせ、二三の名所すら、殆ど素通りと同じく一瞥し去りたるに過ぎざるを奈何せん。

西泠橋畔蘇少々の墓には、車上より敬意を表し、直ちに鄂王廟に到る。廟は棲霞嶺の陽に在りて、宋室盡忠の臣岳飛を祀る。廟の前に高宗帝の書『偉烈純忠』の額を懸け、廟內には、岳飛の剌像を奉安し、四壁には、彼れが書する所の字及び高宗帝の手詔を嵌す。而して飛の墳墓は廟の傍に在り、俗に岳墳と稱す。墓前の門には精忠墓と標し、宋室忠臣岳氏塚と刻せり。墳塋の前に石碑あり、宋岳鄂王之墓と刻銘す。春風老柏を吹いて愁思そゞろに催ほす。墓地の一隅に秦檜を始め、王氏、萬俟卨、張俊等岳飛を誣いて、之を殺戮せる惡人の銅像半裸體姿にて立ち多數の參詣者其の周圍より、或は横面を叩くあり、尾籠作ら小便を引つ掛けるあり。而して岳飛の墳には身を凭せて、彼れが忠義の精神の已れに乘り移らんことを希ふ人あり。其れ忠烈ある者は其名存すること岳飛の如く、奸惡なる者は恥を天地に曝すこと秦檜等の如し。莫迷、岳王墓前に、烈士の精忠を擧ばんとする今日の中華國人は、そも何者に向つてか忠義を鳴さむとするぞ。

鄂王の墓を辭して、雜草離々たる塚原を行き、軈て淸漣寺に到る。寺は仙姑山の邊に在り。境內に玉泉あり池の廣さ方三丈、淸澈底を窺ふべく、池中幾千の鯉群あり、大なるは三四尺に及ぶ。此處より樹林竹叢に富める坂路を行き、蜿蜒路轉ずる所、靈隱山雲林寺に到る。此寺は晉の成和元年僧慧理の建立に係り、元明の興廢常なく、淸の順治の時、僧宏禮重建せり。境內廣くして林巒堂樓の趣に富み、覺皇殿、直指堂、羅漢殿、金光明殿、大樹堂、聯燈閣、華嚴閣、玉樹林、紫竹林、萬竹堂等の諸勝あり。竹林は頗ぶる見ものゝ也。此等は長髮賊の亂に洪秀全の爲めに蹂躙する所となり、殆ど毀廢に歸したるが、其後主僧資を募り、亞米利加產の巨材を輸入して本堂を重建せり。長髮賊は支那の秩序を攪亂したるのみならず、到る處名所舊蹟を破壞し去れり。羅漢堂內に等身の五百羅漢像は見事なるものに候。寺前の飛來峯は、蒼翠玉立一奇勝たるを失はず。峯下に巖窟佛あり。巖窟其物に彫刻し、頗る珍とすべし。

雲林寺に近く上中下の三天竺寺あり、其內一寺に參詣したるが、凡そ寺と云ふ寺には、千種萬態の乞食群居し、異樣の聲を放つて哀を乞ふ樣凄じなんど云ふばかりなく、嘔吐を催ほさん許りに辟易したれば、匆々踵を回らし湖畔に出づ。西湖の淸漣、蘇堤の煙柳、野芳幽香、最早や乞食の影もなく、心思暢快也。南屛山下雷峰塔を過ぎて、好らく湖畔を走り、城壁の門を入り、此處にて俥を捨て、吳山に登る。吳山は天目の一脈にして、半ば杭州城中に在り、明の太祖巡狩して、立馬吳山第一峰と吟じたるは此山なりと云ふ

南言北語

獨相ホールウエツヒ君は議會劈頭に今度は從來よりも一層具體的講和條件を提出すると云つて居る▲其れでは今迄のは鳥渡小當りに當つて見たものだらうイヤ其の要領を得なかつた處は聯合國を馬鹿にして居た觀があつた▲具體的だつて一層具體的では何の樣なものを出して來るか判らぬ▲一層なら頭から降參して兜を脫げば一番の早道ではないか▲而しルーズベルト君などはカウボーイや黑人兵を率ゐて佛國戰線に出掛ける相だから折角の事講和提出などはマア當分後廻しにするが好いサ▲支那の保利銀公司收賄事件の暴露と共に財政次長殷汝驪君は何時の間にか煙の樣に消ゑた▲捕吏の連中がイザと飛び込んだ時は最う殷は見ゑなかつた▲檢察廳では殷君の寫眞五千枚を燒增して鵜の目鷹の目だが總て明らぬ▲其れも其の筈殷君は其れッと云ふと二百圓を懷中して屋敷を飛び出し▲治外法權の元の淸朝の宮城に逃げ込み衞兵を欺いて賄賂に取つた金を又た兵士に賄賂し▲女の衣裝を取り寄せ面は紅白粉でコッテリ作り宮城の壁に穴を穿けて其處から逃げ出し▲大膽にも天津行の汽車に乘つてヘイ左樣なら▲元來が蒭目石だが優形の好男子だつたから何人も變裝と御存じなかつたとは大出來▲されど國民黨中の有爲の人物と目された殷君も財政次長など仰せ付かつたが身の破滅となつた▲惜しい事をしたものだが之れも矢ッ張り小人玉を抱いて罪ありだね

寓公　今關天彭

樓小猶容兩膝寬。筆床茶竈亦便安。寓公多事帳八識。柳外絲驄花外欄。

冒險世界

（悲劇）玄海洋　虎將大尉
軍隊一流の荒療治…某軍醫
△縮尻話「結婚の卷」…百笑大人
△奴長兵衞（俠客小說）…平井晩村
痛快坊っちやん先生…森田雲外
△愉快四ツの印（探偵小說）…長瀨春風
▲續「書生さん物語」…布川靜淵
▲歐洲諸國皇室物語
▲成金熱に浮され記
▲白虎隊…阿武天風
▲三人寄つて相撲話
▲戰川大物語
▲最近關西の運動界
一高七不思議物語…片渠亭市
五月號　定價十八錢　郵稅一錢半　東京本町　博文館

朝鮮及滿洲
五月號出づ　每月一回十日發行　一部廿五錢、郵稅一錢五厘、半ヶ年一圓五十錢（郵稅共）、一ヶ年三圓（郵稅共）
▲寺內內閣の對支政策を評す…法學士　吉野作造
墨西哥と對日本の將來…高岡公使
支那交通次長と語る…西二千峰
海外評論…渡邊長峰
鐵鑛と歐洲大戰…木戸忠太郎
スター博士と記者の問答…可水
裏門から見た總督府…茶目公
制令の委任問題…加古法學士
黑龍督軍を訪ふ…靑風生
民族の發展と疾病…結城玄道
在鮮內地人の教育…香孫子
京城成功者苦心物語…呉齋山人
人體發育史…久保博士
電信電話から見た京城…古郷生
黃河と河運…今關彭
蒙古獵界奇談…太田勘
三省見聞記…靑風生
◎風聞歌語
▲八道の巡視より歸りたる長谷川總督大に記者に語る…釋尾旭邦
▼長谷川總督は記者に何を語りしか―官民共に必讀すべき近來の文字
北海道と朝鮮…美濃部總裁
滿洲貿易と紡糸工業…神戶博士
朝鮮に於ける漁業…庵原文一
上海から浦鹽まで…小原島亮
歐米から得た敎訓…入見次郎
松方矢野兩氏の洋行土產…法界子
在鮮內地人府縣人分布觀…瀨生大夢
外交記者の見た朝鮮の人物…島村山人
世界ホテルの新趨勢…猪股忠次
漢詩、和歌
報告書に現はれたる京城の木の芽立と花柳病…瀨戸醫學士
短歌、俳句
▲京城のカフエーとカフエーの女…天來生
▲小說空中時代…ローン作
銀行會社評…一記者
發行所　京城旭町　朝鮮雜誌社　電話一二五〇番　振替京城二三一番

朝鮮總督府囑託　西村眞太郎著　第四版
朝鮮語會話　定價金八拾錢　郵稅四錢
受驗者必携の資料　袖珍總クロース四百餘頁頗美本
本書は第二版に於て動詞、形容詞の大增補を行ひ嘖々たる好評を博し偉大なる賣行を示したり、爾來三版は瞬く裏に賣盡したるを以て、茲に更に大々的增補を斷行し、副詞の適譯百種及最近試驗問題解等を載せて、愈々第四版を發賣するに至れり是非速に一本を机上に備へて愛讀せられんことを希ふ
賣捌所　京城大平通一丁目　振替京城三〇〇番　大阪屋號
取次所　京城日報社代理部　嚴松堂　京日各支局

◎瓦値上廣告
今般燃料騰貴に付不得已左の通り値上仕候
▲並瓦　價格一枚に付　金參錢四厘
大正六年四月二十七日
京畿製瓦組合

日本赤十字社安東支部第六回社員總會

◎兩 等商業學校教授多々良亨、大橋末彥

南燕飛行學校卒業生某は五十馬力機にて飛行中疾風の爲

東京極東オリンピック出場の支那南方選手一行五十九名は三十日朝支那遊學生在京支那人等の盛

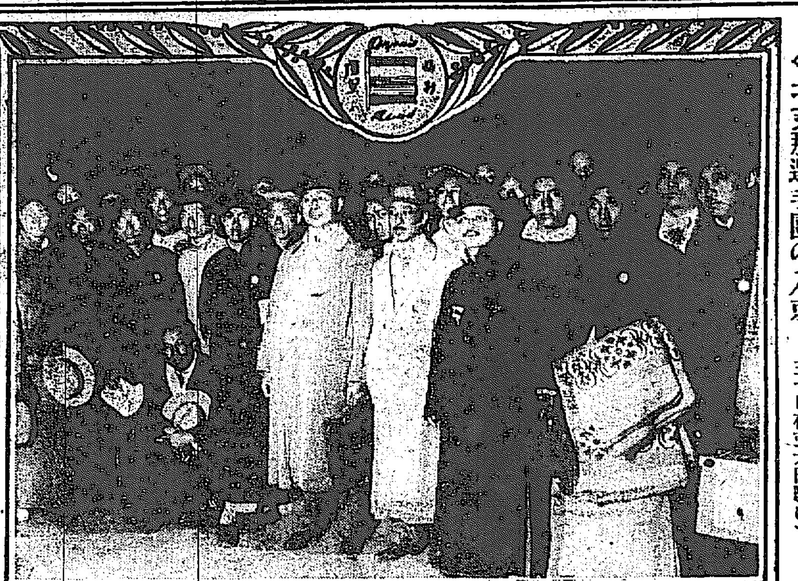
◎市會副議長の

滋賀縣犬上郡□□村西田文太郎は三十日徵兵檢査の結果身長二尺六寸に 徵兵檢査で發見

◎佐賀師範生の停學

四月三十日午前九時より鎭山腹なる彰忠碑前に於て靖國神社春季例祭 執行

▲進行方向東▲咸鏡南北道、黃海道、江原道の沿岸及び內陸



◇北支那選手團の入京＝三十日夜南大門驛にて＝

◉最大レコードとして

北支選手團五十六名＝孰も拔群雄偉の顔 東京のオリンピック大會へ

來る八日より五日間東京芝浦に於て開催せらるゝ極東オリンピックゲーム支那側選手の中北方支那選手卅八名は第三回極東オリンピック支那政府代表者北京清華學校副校長趙國材氏に引率せられ付添各職員を合せて五十六名は三十日午後七時三十分南大門驛着入京金旅館に投宿一日午前八時三十分發列車にて東上せり選手は何れも中華民國旗を中央に描きたる徽章を胸にかけ拔群雄偉の顔を並べ居たり趙國材氏及び北京高等師範學校教授嚴智宗氏は途中金村驛まで出迎へたる本社記者に對ひ交々語つて曰く

◘選手は北京清華學校から五名天津南開學校から八名直隸高等師範學校から二名北京高等師範學校附屬中學から一名北京匯文大學より二名唐山路礦學校、黑龍江第一中學校、山東第一中學校、北京師範學校、直隸工業專門學校、北京大學院より各一名天津中學より三名同新學書院より三名通縣協和學校より三名學校卒業者より五名

◘合計二十八名にして年齡は十八歲より二十七歲迄で平均年齡は二十二歲です今回貴國に於て開催せらるゝ極東オリンピック大會は東洋に於けるゲームの最大レコードとして吾國の選手等も大いに奮起して居ります選手は御覽の通り何れも元氣旺盛であります

◘吾國の運動界は 三四年來漸く發達したるのみにて未だ東洋に覇を唱へるには至りません然しながら今や朝野を擧げて體育を重要視するに至れると共に國際オリンピックの勝負には多大の注意を拂つて凝視しつゝあるを以て此の行亦多少誇るべき成績を贏ち得ざれば歸國して郷黨父老に

◘合すべき顏色が ありません、吾國の希望よりすればゲームのシーズンは六月を最好とすれど其の頃貴國は陰雨の候に當るを以て止むを得ず今回開催せられたる事なるが吾國の學年は何れも三月にて試驗後多くの練習を積む能はざりしは聊か懸念する處であります、常選手團はマラソン、ランナー多けれど多くは短距離にして

◘長距離の者十哩一名あり併し短距離には駿足多く特に南開學校の郭毓彬君は昨年上海に於けるオリンピックゲームの競爭に一哩四分五十秒五分の四半哩を二分六秒五分の三のレコードを作りたる雄あり此の外投射、高飛、幅飛、バスケットボール等の選手あり水泳と野球との選手を缺げり其の代りに香港より發したる

◘南方支那選手の 二十七名の內には水泳選手三名野球選手十九名を有して居ります、實は今晩釜山迄直行の筈なりしが選手を疲勞せしめざると關釜連絡船も當行の分は狹隘にして多數の座席なしとの事なれば俄に行程を變じて京城一泊の事としました、東京著後は二三日悠々と英氣を養ふ考へです

◘東京には支那人料理店も多數あるとの事なれば選手の食物には心配ありますまい最も今日も列車中にて一同日本辨當を晝食に取りし處何れも大いに嗜好に適し、却つて列車中の洋食よりも悅び居たり、先づ能きる丈の奮闘を試みますと述べ列車南大門驛に著くや富總領事以下の出迎あり流石にオリンピック、ゲームの選手だけに何れも意氣揚々と旅館に入りたり

◉大谷光演師安東通過

大谷光演法主一行は三十日午後七時三十分安東驛著樓上貴賓室にて出迎の官民及び信徒に接見し同八時十分發奉天に向へり（安東特電）

◎京城附近無双の名刹 本社主催大野遊會の場所は 實に斯る勝景の地です

來る六日の日曜日に本社が未だ試みなかつたイヤまだ京城で一度も試みた事のない家族的大野遊會を花の露島緣の奉恩寺で開催する事となつたのは頗る愉快な有趣味で有益な大なる企てと云はねばならぬ花見とか探勝とか普通の擧行事とは烏渡一風異つた處はたしかに我愛讀ィ諸君が充分饑春の行樂を恣にする事が出來る事を今から請合ておく本社は京城龍山は無論其の附近の我愛讀者諸君が一日思ふ樣愉快に面白く遊び暮す爲に此の大會を催すので云はゞ一種の交際機關である而も男女老若を問はず此の日は同じ樣に愉快に遊ぶのです

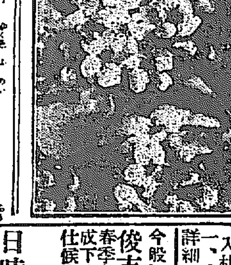
◇花園、舟遊、深林 七十餘町歩の大花園で遊ぶ事も出來れば新綠滴る漢江々岸で釣を垂れて遊ぶ事も出來る大湖水の樣な大漢江で一家打ち揃ふて舟を浮べて舟遊をする事も出來る百花咲き亂れた小丘で躑躅を見詰やたんぽゝ、なづなと云はず春の野花一面に毛氈を敷た樣な處でお辨當を開くも好い

◇太古の如き仙郷 十二萬八千坪に繁茂した松林中に千年の昔を語る名刹伽藍で半日の逍遙をするも好い白菫一面地を掩ふて行けども盡きぬ大松林中で佛法鳥や閑古鳥や雉子の聲を聞くも好い松籟怒濤を聞くかの樣に深林を散歩するのも好い春の北彩どる春の曠野鏡の如き大湖水然たる漢江、京城附近唯一の名刹、さては太古の如き大深林の仙郷到る處新綠あり桃花あり梨花あり林檎花あり花と云ふ花は野に山に滿開す實に武陵桃源も斯くやの感がある而も京城から最も近くて諸君の來遊を今から大に待て居ます本社同人も實は今回始めて其の地を實地視察して京城附近に斯る名勝の場所のあつたのに大に驚いて居る次第である諸君が一日の行樂を恣にせんとする此の勝地が何の樣な處であるかを之から御紹介する事にした

大深林の仙郷名刹に閑古鳥 家族的大野遊會 大花園漢江の舟遊

五月六日（日曜）

京城日報社 每日申報社



◎スミス氏 空中の妙技

スミス氏飛行會は三十日鳴尾にて擧行午前十時五十分滑走五十米突にて離陸し橫轉、キルク拔き、地上接吻、宙返り、空中ダンス等の妙技を數回演じ十一時二分無事著陸したるが更に第二回飛行を午後三時五十分より開始妙技を盡して同四時二分無事著陸せり見物五萬人折柄スチンソン孃も來りスミス氏及び其母と握手し成功を祝せり（大阪特電）

◇靖國神社大祭 勅使御差遣

四月三十日は靖國神社大祭に就き午前八時勅使、掌典伯爵、烏丸光大氏を差遣あり大島陸相、加藤海相以下陸海軍將校の參拜者頗る多し（東京特電）

◉盧津管長講演

永源寺派管長盧津實全師は三十日朝滿洲より五臺山參詣の上翌一日新義州に赴き二日夜安東縣公會堂に於て講演を爲すべし（安東特電）

◉二兇賊捕はる

全南海南郡馬山面生れ朴明玉（三一）羅州郡金川面生れ李小者（二七）の兩人は兵謀して一昨年頃より羅州成佃海南康津を股に掛け強盜を働きつゝありしが豫て榮山浦分隊にて偵探中去る二十二日羅州郡旺谷面有井里酒幕頭に基譯方にて飲酒中を榮山浦分隊の憲兵に踏込まれ狼狽して逃走せんとするを朴明玉は逮に取押へられしも李小者は逃走し翌二十三日同郡金川面古岸里曹良化方に居る所を逮捕されたるが兩名は昨年三月中羅州金永桂李圭梓徐炳鎬鄭大巨方等へ強盜に押入りたる外二十餘件の強盜を働き居れる旨自白し尚引續き取調中

◉少女熱湯で慘死

群山電氣會社技師別府民一氏の愛孃千子（五）は二十五日夕刻電氣仕掛なる浴場中の熱湯槽に著衣の儘誤つて陸落し悲鳴を聞きつけ家人が發見し引揚げたる上直ちに醫院にて應急手當を受けしも遂に絕命したりと

◉談合事件上告 審判決期日

過般來高等法院に上告して聯合審判迄辯論を開廷したる例の談合事件は來る五月十日愈々判決あるべしと

◉釜山の土地係爭事件辯論開廷（一日）

釜山に於ける土地所有權確認事件として釜對馬藩主宗伯爵の關係ある土地係爭事件は過般上告中該事件は此程京城覆審法院に廻附され淺田裁判長の係りにて五月一日辯論開廷の筈にて佐々木、窪田二訴訟代理人及び庄野辯護士の辯論あるべしと

◉格鬪して捕はる

忠南保寧郡嵋山面茅項里李正天事李仁甫（四七）は大正三年七月二十二日強盜傷人罪に依り公州地方法院に於て缺席判決懲役十五年の判決を受けたるも巧に逃亡し行衞不明なりしが四月中旬自宅に舞ひ戻り居る所を保寧警察署の巡查補姜洪奭が探知し取押へんとしたるに激しく抵抗し約二十分格鬪の後遂に逮捕され身柄は裁判所へ送られたり

◉美しき同情 視察團員の寄附

道回の視察團一行が奉天を始め北哈爾賓まで到る處朝鮮人會主催の熱誠なる歡送迎をうけたのは內鮮人共に頗る

▽愉快に感じ 且つ帝國の大陸發展の爲め慶賀に堪へぬところであつた、就中鐵嶺には熱心なる張宇根氏の如き教育者があつて在滿鮮人の教育に盡力せらるは殊に一行を感動せしめたとであつた、そこで汽車中の先づ內地人側から張氏の

▽事業を賛同 し各員二圓宛を寄附したのを手始めに鮮人側からも白完鎬氏、尹致昊氏、張憲植氏等の主唱者が發起で各自二三圓宛の寄附金を集めることになつた、其の中ある人は三十圓を或る人は十圓五圓といふ申し出により寄附金は總額

▽四百六十圓 八十七錢となつた、そこで奉天へは朝鮮人會の基本金として金二百七十五圓を赤塚總領事に託し哈爾賓も同じく同地朝鮮人會へ七十六圓八十七錢を領事館を經て寄贈し鐵嶺の鮮人學校へは金百九圓を贈ることゝなつた、これも道次視察團が內鮮人協同の實を擧げ得たことの一つである

◉聯合會の三日目

壽館に於ける素人義太夫聯合大會初日の高點者は若葉會昭盛、彌生會與月、鶴松會旭昇等なるが三日目の番組次の如し

▲赤垣出立振照（奈良梅）▲明がらす山名屋初子（和太夫）▲三勝半七酒屋の段昨蝶、小庄▲日蓮記勘作內いてう一鶴（龍糸）▲攝州合邦ヶ辻下結局 文平▲源平布引瀧四段目盛（梅若）▲千本櫻すしやの段松鶴（文平）

◉田中島彌官舍の訃

李王職事務官田中遷氏母堂よし子は二十九日鄉里鳥取縣氣高郡寶木村にて永眠せり

◉取消

拜啓陳者貴紙四月二十七日朝刊第三面所載『三坂通薪火事』原因中小生妻が焚火なしたる樣御記載あるも當日は焚火をなしたる事なきにより原因の部分だけ御取消相成度候也

大正六年五月一日 松下五一㊞

京城日報社御中

競爭入札 朝鮮總督府遞信局 購買 一、式紙類、封皮其他二廉 詳細四月三十日ノ本府官報ニ在り

今般朝鮮銀行總裁美濃部俊吉氏の歡迎を兼ね左記に依り春季大會を開催致候間奮て御出席被成下度此段會員及本縣人各位に謹告仕候也

日時 五月六日午後五時より開始午後六時より開宴

場所 花月樓

會費 金貳圓五拾錢（當日御持參の事）

追て御出席の諾否は五月三日迄金町二丁目白井勝悟、總督府會計課內高山聰郎兩氏の中へ御通知相成度申添候

兵庫縣人會幹事

最新刊

書名	著者	定價
◎大字典	上田萬年外四博士	五、五〇
◎詳解漢和大字典	服部、小柳	三、〇〇
◎現代の文犯と法律	牧野英一	一、二〇
◎露國政界の表裏	山田 枯柳	九〇
◎海外發展と我國の教育	永田稠	七五
◎書翰文大觀	內海 月杖	九〇
◎職員錄（大正六年一月現在朝鮮總督府及所屬官署）	總督府	五五
◎大正六年一月現在鑛區一覽	同	四〇
◎草書の書方	齊藤 春村	六五
◎慨世餘言	大谷 光瑞	三五
◎文學趣味養成論	井上 柱	一、五〇
◎事實小說緋桃白桃	米山 蘇花	一、〇〇
◎人の情	小栗 風葉	八〇
◎梅鉢草	正宗 白鳥	九〇
◎毒草（疑獄の卷）	菊池 幽芳	一、二〇

大阪屋號書店

京日案內

普通

◎代診藥局生並に看護婦至急入用 希望者は履歷書携帶來談あれ 仁川宮町 松本病院 46

京城でスタイルとシイズンは日新商行に限る 42

◎店員及び手代 十名入用 京城青葉町三丁目百廿番地 大橋大三郎 41

看護婦數名至急募集す但免狀ィす る者希望者は履歷書送れ 仁川仲町一丁目 看護婦會 31

◎古本熱心高價買入 ◎是非御試買を乞ふ ▲御粧參上 ▲本町二 ▲普華群書堂 792

◎金融便宜立替御へ 官吏教師へ極秘引戾信用貸 伺又は御來談 京城本町電車終點北 大和商質店 995

◎ブラシ製造機械附屬品至急賣却 姓名在社 36

番外

多利 ゴム風船寶月サック卸商 ◎小賣は三倍以上五倍利す ◎當店特色は薄利多賣定價表無料送 京城太平通二 太陽ゴム商會 電話二六〇六番 48

◎はねつぎ うくみ ちじき 一切の治療御依賴に應ず 明治町 柔術道塲 47

店員募集 相當學力ある者 名及菓子職工見習 三名募集す希望者は履歷書携帶本人 來談市內保證人を要す 京城本町 四丁目 門田朝鮮堂 電一六八六 43

恩給年金立替 即時取引退隱料一切千圓以上別契 京城櫻井町（大正館向）元祖 博多屋本店 45

ヴァイオリンピアノオルガン 買入弁御不用の方は御持あれ 大和町一ノ三 杉野樂器店 44

優等銘酒 本火酒發賣 宅合名會社 灘工場吟釀

△初日午後七時滿員！ △あとタツタ四日間！ 浪界の權威！武士道鼓吹！！ 二代目桃中軒雲右衞門 △含味せよ徹底せる彼が叫を！ △傾聽せよ微妙なる彼が響を！ 京城本町一丁目 電話二〇五番五九七番 有樂館

各種萬年筆即時修繕 京城旭町二ノ六 東京パイン萬年筆出張所

株式會社第一銀行京城支店 京城本町二丁目（振替貯金京城一一番） 資本金 貳千貳百七拾萬圓 積立金 壹千〇五拾五萬圓 支配人 西村道彥 銀行一般の業務は確實を旨とし精々御便利に取扱申候 內地滿鮮並に歐米樞要の地に爲替取引先有之候 明治火災保險株式會社代理店事務取扱申候

入院隨意 京城永樂町二丁目（商品陳列館裏門通） 電話二六〇〇一八番 酒井婦人病院 院長 酒井一郎

營業案內 無代進呈 農具 開墾用、耕耘用、其他各種 製繩機、製莚機等 蠶具 飼育、製絲、消毒、檢査用各種 肥料 大豆粕、過燐酸、硫酸アンモニア 油粕、人造肥料、其他各種 ◎右多少に不拘御注文の程希上候 ◎定價表は御一報次第送呈可仕候 京城南大門外 朝鮮勸農株式會社販賣部 電話四〇三番・振替口座京城三七八番

鑛山用測量諸器械 京城本町 シノサキ

質 店移轉致候間御披露申上候 左記の所へ新築中の處今般落成御堅牢なる倉庫をも新設仕候間保管安全に御座候 京城櫻井町二丁目一六一 松浦質店

怒濤の月

小林蹴月作 武内桂舟畫

百五十一 熱と氷と『二十九』の五

『あれッ、阿兄さん、郎君は御歸りになるんですか？』

よろめき起つた幸三郎を見掛けて絹代は覺えず聲を出したのであつた。

『…………。』

幸三郎は、何とも云はずに、じろりと下目に絹代を睨み付けたぎり立ち止まつた。

『何だか知らないが、大層お召物や何かも、泥塗れになつて居ります事ね。』

絹代は、既での事立ち寄つて、男の袂に取縋らうと爲たが、若しや……と、氣が付いたやうに歯を喰ひ縛つて、又暫時は四邊の容子に息を凝らした。

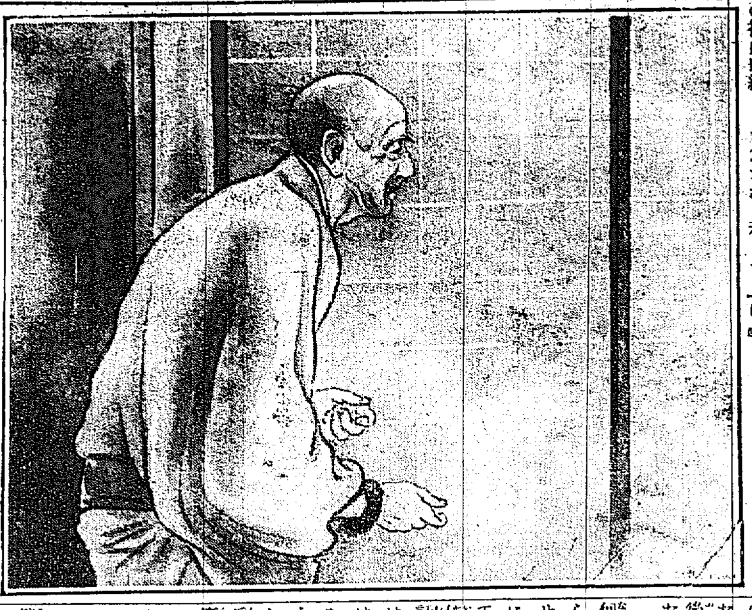
『絹さん、お前と僕とは筒井筒の許婚だつたんだね。』

幸三郎は、力のない冥土の人のやうな聲で言つた。

『そりや、誰方が何と仰有らうとも然うに違ひは御座いませんわ。』

絹代は、今までになく力を込めた聲で答へた。そして危げなる幸三郎の脚底を故意と氣付けさせるやうに凝視つた。

『それが愈今夜と云ふ今夜、戀の糸を絶ち切る事となつたんだね。僕は未練で言ふんぢやないが、お前と僕との許婚は、詰り世の中の薄命に終らうとする戀の男女の犧牲に供される爲めに出來上つたんだね。それでもお前には男爵と云ふ立派な權勢の後楯があつての事だが、僕は見る通りの崖から轉げ墜ちた泥ぼつけの人間です。永い／＼年月の間、許婚と云ふ名稱ばかりで、終に一度も戀の眞味を知つた事もない僕は、矢張今後の永久も、此の通りで過さねばならんかも知れんが、併し、絹さん人間には又、意地と云ふものがあるからね……お前が男爵に世話せらるゝやうな幸福な境遇になつて居る丈それ丈、僕の方にもお前などの想像する事の出來ない幸福の境遇が生れて來んも限らんからね。は、は、は、は。』



幸三郎は、白い歯を出して心地好さゝうに笑ひながら、緣先から靴脱の上へ降りやうと爲ると、突然其處へ住職の老僧は、絹代の名を呼びながら出て來た。

『絹代どの、まだお寢みにならぬか、既う先刻に九時を打つたやうぢやが……』と、言ひさして、老僧は不圖白き眉根を蹙かし始めた。

『おう、其處に誰方か見馴れぬ御人がお在のやうぢやの。表門はもう疾の昔に閉してある筈ぢやが、何處から入つて御座つたの？』

『はい、方丈樣、此の人は……あの妾の阿兄で御座いますので……』

絹代は、はら／＼と爲ながら、漸との思ひで斯う答へた。

『はての、お前樣の兄御とあれば、それに詐りもありますまいが、それにしても花泉の男爵から、男女に拘はらず必ず無斷で面會さして呉れるなと、堅く／＼頼まれて居ましたぢやから、後で男爵殿に知れるやうな事あつては、愚僧が濟みませんぢや。さあ／＼、早く歸つて下され。』

老僧は、固より律義一遍なのであるから、事情も理由も深くは聞かずに、幸三郎を片時も早く追返さうと燥つた。

『いや、御住職で御座いましたか。少々急な用向きが御座いましたので御斷はりも致さずに入り込みました罪は、幾重にもお詫びを致します。只今實は仰せが御座いませんでも、立ち歸らうと存じました所で……』

幸三郎は、無論歸りかけて居た所であつたから、一も二もなく緣を降つて、庭傳ひに本堂の横手へ急ぎ去つたのである。絹代は、悶ながらその後影を見送つて、宛然茫然自失したる人の如くであつたが、少時して後、わッと聲を上げて疊へ泣き倒れた。

『これは爲たり絹代どの、お前さん何を泣かしやる。愚僧には何が何やら、先刻來の容子が頓と合點ゆきませんぢやの。お前さんの身躰は、蚤にも喰はさぬやう大切に待遇つといて呉れと、男爵殿から呉れ／＼の御依頼ゆゑ、愚僧も此の通り餘計な世話を燒いて居ますが、今の壯い御人は彼りや、お前さんの眞實の兄御ではなうて、何か前方から深い仔細のある御人ではないかの。然うなら然うと打明けての事なら、愚僧も亦知らぬ顔して、見ぬ眞似聞かぬ眞似を爲て遁せたものを、何やらく／＼庫裏の方で、話聲が聞れたもんぢやから、とりや事に依たら、男爵殿でも見れて御座るのか知らんと思ふての。あツは、は、は、そりや途方もないわるい事を爲ましたの。』

老僧は流石幾分の粋を利かした了簡らしいが、一旦立ち去つた幸三郎の影は、最早駟馬も及ばずであつた。絹代は、身を顫はして血の涙を濺した。

◇新選良の年齢と職業調べ◇

今度選出された新代議士諸君のお年を素破抜いて見ると最年長者は福岡選出の藏内治郎作氏で弘化四年一月生の本年が七十四歳、最年少者は愛知縣選出の瀧正雄氏で、明治十七年四月生れの本年三十四歳、三百八十一人全部の年號順に概別すると左の通りで、前代議士諸君に比して年少氣鋭の選良が頗る多きを加へ、明治生れの如きは前回の百四十七人に對し今回は百八十一人を示して居る、されば如何に新議會が清新の空氣に充滿せらるゝかを想はしむ

▲弘化生れ二人▲嘉永生れ十四人▲安政生れ[illegible]人▲元治生れ二十七人▲慶應生れ六十二人▲明治生れ百八十一人▲合計三百八十一人

又是等新代議士諸君の職業別を紹介すると▲會社重役及び商工業八十五人▲辯護士五十五人▲新聞雜誌社長及記者四十三人▲農業三十三人▲地主三十一人▲實業家十四人▲醫師十三人▲銀行家及び會長十五人▲學者敎育家九人▲漁業六人▲公職に在るもの六人▲船舶及運送業三人▲雜四人▲無職六十四人である

新刊紹介

▲新編日本讀史地圖（文學博士吉田東伍著）中學程度以上一般の讀史研究家の用に供せん爲め著者及び歴史科編纂官蘆田伊人兩氏が苦心精力を傾注して編纂せるものにして神武天皇東征より青島戰役に至る迄六十六圖を載せ（以下略）[illegible]

▲和歌講話（若山牧水著）大別して三篇と爲す第一篇「歌論と批評と添削」中添削は初心者に便ならしむ第二篇「和歌評釋」には（以下）[illegible]（参圓東京神田南明社）

▲舊幕府御秘藏讎戰（名人本因坊秀哉談評）[illegible]（八十錢東京牛込神樂町二ノ二二大弦堂）

▲學生ロマンス（坂本健三郎著）[illegible]（八十五錢東京日本橋北槇町一〇大阪屋）

▲日記文自在（生田長江、中村古峡共編）[illegible]（三十八錢東京日本橋濱町二ノ一二須原屋）

▲悔悟再生錄（小原虎次郎著）[illegible]（四十錢東京府北品川御殿山七一八三俠社出版部）

▲講談長篇加藤清正（西玉譚）[illegible]（三十錢東京日本橋傳文館）

▲講談落語娯樂世界（五月號）[illegible]（二十五錢東京日本橋スキヤ町九共社）

▲商と工（五週年紀念號）三十錢東京々橋新肴町一二共社

▲婦人週報（三の一六）四錢五厘東京牛込市ヶ谷田町二の一七共社

▲法治國（四月號）十錢東京京橋新肴町一東京法律事務所

▲青年雄辯（五月號）二十錢東京牛込矢來町一共社

▲保險新聞（七の七）九錢東京神田北神保町八共社

▲青年文壇（五月號）二十五錢東京牛込榎本町一の一東雲堂

▲電氣句報（四月號）二十錢大阪北區若松町二電界社

▲料理の友（五月號）二十二錢東京上大崎中丸大日本料理研究會

▲嗜好（四月號）六錢東京々橋銀座二の六明治屋

▲筆之友（四月號）二十錢東京神田猿樂町二の六筆道研究會

◉英語獨習者の便宜 誰れでもこれなら大丈夫獨りで英語は學べると十人が十人思ばれしつゝある大日本國民英語學會は今回第廿三回の新學期を開始して會員を募集しつゝあり講義錄の内容見本は市外[illegible]

商況

馬山

▲兩長官歡迎 大邱驛等あり盛會を極む▲山下司令長官 佐世保鎭守府司令長官山下[illegible]

開港記念祭 五月一日は馬山開港當日に相當せるを以て馬山神社にては[illegible]と共に盛大な[illegible]

慶南警務部長は廿七日來馬各官衙に新任の挨拶を爲し廿八日鎮海に向ひ[illegible]

[illegible]を開始するものあり[illegible]

[illegible]除雨なかりしため麥作及び野菜物の發育甚だ惡く殊に[illegible]

[illegible]數頭の耕牛斃死したるを二十七日[illegible]

髪手入は一度で忽ち漆の黑さとする

髪の良き人には愈良く惡き人

植物性美毛劑加味

ホーカー美髪液

△國産純良の椿油を以て精製し[illegible]

東京和泉橋 堀越嘉太郎商店

消化と毒けし

三輪井上兩博士御方劑 仁丹 本舖森下博藥房

仁丹活用

◉運動散歩の時仁丹
◉遠足旅行の時仁丹
◉息切咽渴の時仁丹
◉一寸一服の時仁丹
◉煙草の代用に仁丹

今が外出の好季節

手にく仁丹忘れずに、行けく山へ行け川へ

仁丹召せば愉快百倍

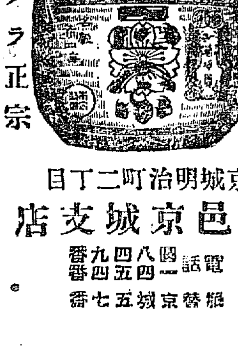
金言

愚者は言葉を弄し賢者は聞くにあらざれば答へず

俚諺

⦿特に必要なる時節來れり アルボース⦿

比較は最良の撰擇法なり!! サクラ正宗



サクラ正宗

京城明治町二丁目

山邑京城支店

電話四八一四四番 九五四四番 振替京城五七番

各種萬年筆修繕 振替口座京城三〇〇番 京城日報代理部

中島商店

珍本 ●●●● 珍書目錄進呈 切手二錢送れ 東京神田西小川町二 大文社

汽船釜山出帆廣告

門司、神戸、大阪行
○和歌浦丸 五月七日後五時出帆
○立神丸 五月十八日後五時出帆
仁川、清津、浦鹽行
○山城丸 五月十七日後十時出帆
○和歌浦丸 五月六日後四時出帆
元山、城津、清津行
○立神丸
○山西湖丸 新浦、城津、清津行 月 日後六時出帆
元山、第三琴平丸 五月 日後六時出帆
○司宇品、神戸、大阪行 第三琴平丸 月 日後六時出帆
四國 佐須奈、嚴原、壹岐、博多行
○天眞丸 毎月二日九日十四日廿一日廿六日午後十時出帆
釜山港埋立新町 本社取扱店 大池回漕部

日本郵船仁川出帆

○大連行 相模丸 五月 日正午出帆
天津、太沽、牛荘行 五月十一日正午出帆
三河丸 五月十二日正午出帆
仁川港町 取扱店 郵船 回漕部

朝鮮郵船出帆

○○○○
江原丸 五月十二日
京畿丸 五月四日
黄海丸 五月八日
咸鏡丸 五月十九日
門司より釜山各港寄港 釜山發

○○○
穩城丸 五月九日
吉丹丸
鏡城丸 五月三日
元山より各港寄港 元山發

○吉州丸 四月 日 元山發
○盛徳丸 五月四日 釜山發 甘浦、元龍山、浦項各港寄港
○江陵丸
○江陽丸 毎月 日 釜山發 新浦發
○三和丸 五月六日 釜山發
○海州丸 ○江華丸 ○慶安丸 毎日 釜山發
○平安丸 元山發
○天草丸 木浦發
○慶興丸 五月六日 木浦發
○慶州丸 五月三日 木浦發
○公州丸 五月八日 木浦發
○竹島丸 麗水丸 五月四日 五月八日 仁川發
○宗信丸 五月一日 仁川發
○晉州丸 麗水丸 五月 月 日 仁川發
○金州丸 南陽丸 毎日午前 仁川發

鐵道省線及既外船と南鮮連絡運送の便あり 本社電話長一九五二番 仁川代理店 京城南大門驛前 京城荷客取扱店 松原運送店（電話長一七〇番）

御注意 連絡切符發賣所 大阪商船會社仁川支店 電話一三番、二二〇番、五五八番

切符發賣所 内國通運會社京城支店 電話七〇八番

切符發賣所 仁川京城通り 開豐旅館 電話二六二番

大阪商船仁川出帆

○外航路所屬航路（遠洋航路を除く）前連絡有乘船の時は五分引を以て連絡切符發賣仕候

◉關門、神戸、大阪行
×油頭丸 五月十三日後五時出帆
須磨丸 五月十九日後五時出帆
南都丸 五月廿一日後五時出帆
◉群山、神戸、大阪行
須摩丸 五月六日後五時出帆
◉木浦、釜山、廣島、關の浦、長崎行
×安東丸 五月二日後二時出帆
×安東丸 五月二十日後二時出帆
○横濱行
×濟州丸 五月廿五日後二時出帆
×福州丸 五月卅一日後二時出帆
◉釜山、横濱行
×濟州丸 五月三日後二時出帆
◉鎭南浦、大連行
×安東丸 五月十五日後二時出帆
×安東丸 六月二日後二時出帆
◉大連直航
×遼州丸 五月二十日正午出帆
×福州丸 五月廿六日正午出帆
◉鎭南浦行
△潮州丸 五月 日正午出帆
×油頭丸 五月十日正午出帆
◉西湖津新浦城津清津行（元山出帆）
安平丸 五月十一日後十二時出帆
◉清津行（元山出帆）
宮島丸 五月十七日後十二時出帆
◉上海、基隆、打狗行（大連出帆）
基隆丸 五月三日 時出帆
湖北丸 五月十八日後六時出帆

仁川代理店 本町四丁目 野口商會（電話一七三番）
元山代理店 春日町 田口回漕部（電話二四九番）
京城取次店 南大門（電話二六八、二〇七） 河村運送店

阿波共同汽船仁川出帆

○芝罘、大連行 會下山丸 五月四日正午出帆 日午後入港
阿波共同汽船株式會社